



オンラインバックアップ・ リストア運用ガイド

ArcSuite 4.0

はじめに

このたびは富士フイルムビジネスイノベーションのArcSuite[®]をご利用いただき、まことにありがとうございます。

一般に、企業活動では、各業務に関する情報はさまざまな形態のドキュメントとして存在しています。ここでいうドキュメントとは、紙に書かれた文書だけを示す狭義のものではありません。紙はもちろんのこと、ホワイトボードに書かれた文字や図表、プロジェクターやテレビに映し出された映像などを含む広義なものを指します。

ドキュメントは一般に、ひとりの手で作成されるものではなく、複数の人の意見交換や討議を経て作成されます。単純な作業や複雑な計算はコンピューターに委ねられ、あらゆる分野でさまざまなソリューションが展開されていますが、ドキュメントの作成では一般に人が中心なのです。

ArcSuiteは、「ドキュメント」に着目して「人」と「人」をつなぐ、「ドキュメント指向」のソリューション・パッケージです。ArcSuiteをご利用いただくことによって、さまざまなコンピューターシステムを統合したうえでのドキュメントの共有や管理が可能になります。

お使いの商品構成によって、次の機能が標準で提供されないことがあります。

コラボスペース、ドキュメントレビューオプション、ワークフロー、分類ビュー、関連文書検索サービス、原本性保証オプション、キャプチャリングサービス、統合検索サービス、オンラインバックアップオプション、ドキュメント一括操作ツール、連携フォルダ for DocuWorks、連携オプション for Working Folder

本書の内容は、Microsoft Windows Operating System、およびWebブラウザの基本的な知識や操作方法を習得されているかたを対象として記述しています。

Excel、Internet Explorer、Microsoft、Windows、およびWindows Serverは、米国Microsoft Corporationの、米国およびその他の国における登録商標または商標です。

OracleとJavaは、Oracle Corporation及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

Xerox、Xeroxロゴ、およびFuji Xerox ロゴは、米国ゼロックス社の登録商標または商標です。

その他の社名または商品名などは、各社の登録商標または商標です。

Microsoft Corporationの許可を得て画面写真を使用しています。

ご注意

- ・ 本書の編集、変更、または無断での転載はしないでください。
- ・ 本書に記載されている内容は、将来予告なしに変更されることがあります。
- ・ 本書に記載されている画面やイラストは一例です。ご使用の機種やソフトウェア、OS のバージョンによって異なることがあります。

FUJIFILM、およびFUJIFILM ロゴは、富士フイルム株式会社の登録商標または商標です。

ArcEPS、ArcSuite、およびDocuWorksは、富士フイルムビジネスイノベーション株式会社の登録商標または商標です。

著作権について

本ソフトウェア、およびバックアップのために複製されたソフトウェアに関する著作権等を含む一切の無体財産権は、弊社および弊社への供給者に帰属します。

(c) 2002-2021 FUJIFILM Business Innovation Corp.

マニュアル体系

ArcSuiteには、次のマニュアルおよびヘルプがあります。

マニュアルは、PDFファイルまたはヘルプの形式で提供しています。

主なマニュアルは、『ポータル画面のヘルプ』から参照できます。『ポータル画面のヘルプ』は、Webブラウザの操作画面にある【ヘルプ】から表示できます。

補足 お使いの商品構成によっては、提供されない機能の説明がマニュアルに含まれることがあります。

■ 管理者ユーザー向け

名称	概要
セットアップガイド	本製品全体のセットアップ方法について説明しています。
システム管理者ガイド	リソース管理サービスの概要、機能、管理操作を行うコマンドについて説明しています。また、本製品の運用に必要な管理作業について説明しています。
ドキュメント管理サービス管理者ガイド	ドキュメント管理サービスの概要、機能、および管理操作を行うコマンドについて説明しています。
ドキュメント管理サービス管理アプリケーション デスクトップ版のヘルプ	サーバーで行うドキュメント管理サービスの管理操作について説明しています。
ドキュメント管理サービス管理アプリケーション Web版のヘルプ	クライアントPCで行うドキュメント管理サービスの管理操作について説明しています。
オフラインバックアップ・リストア運用ガイド	オフラインバックアップ機能の操作、およびリストア機能の操作について説明しています。
リソース管理アプリケーションのヘルプ	ユーザー、グループ、ユーザーロールの追加、およびライセンスの編集、検索について説明しています。
ログインサーバー管理アプリケーションのヘルプ	ログインサーバーでの認証モードの設定について説明しています。
メッセージ通知管理アプリケーションのヘルプ	メッセージ通知サーバーの設定、メッセージのプール管理、メッセージテンプレートの設定について説明しています。
ポータル管理アプリケーションのヘルプ	ユーザープロフィールに表示する項目の設定、お知らせの設定について説明しています。
ドキュメントスペース管理アプリケーションのヘルプ	属性テンプレートや表示する属性の設定、表示するボタンの設定、およびシステム環境の設定について説明しています。
表示アプリケーション管理ツールのヘルプ	表示アプリケーションのテンプレート、システム環境の設定について説明しています。
ログ管理アプリケーションのヘルプ	ログを表示する機能、ログを取得する機能、および保守情報を一括で取得する機能について説明しています。

名称	概要
監視ツールのヘルプ	ArcSuiteのコンポーネントにアクセスしているユーザー、データベースの状態、およびセッションの状態を監視する機能について説明しています。
ドキュメントスペースドキュメント操作URLリファレンスガイド	ドキュメントスペースの機能にURLを使用して接続する機能について説明しています。
オンラインバックアップ・リストア運用ガイド（本書）	オンラインバックアップ機能の操作、およびリストア機能の操作について説明しています。
e-文書法対応 概要説明書	e-文書法対応の概要および原本性保証オプションの機能について説明しています。
コラボスペース管理アプリケーションのヘルプ	コラボスペースのメールの設定、ログの設定、およびタスクやメッセージの用語をカスタマイズする設定について説明しています。
ワークフロー管理アプリケーションのヘルプ	ワークフロー定義または起動テンプレートの作成者および公開者の設定、ログの設定、外部コマンドの設定について説明しています。
キャプチャリング管理アプリケーションのヘルプ	キャプチャリングサービスの監視キューに対する操作について説明しています。
統合検索サービス管理アプリケーションのヘルプ	統合検索サービスのリソースの設定、収集スケジュールの設定、およびシステム環境の設定について説明しています。
コラボスペースタスク操作URLリファレンスガイド	コラボスペースの機能にURLを使用して接続する機能について説明しています。
ワークフロー操作URLリファレンスガイド	ワークフローの機能にURLを使用して接続する機能について説明しています。
Webサービスインターフェイスリファレンスガイド	ArcSuiteの機能にSOAPを使用して接続するAPIについて説明しています。
ドキュメント管理サービスSDKリファレンスガイド	ドキュメント管理サービスのオブジェクトを処理するコマンドについて説明しています。
コラボスペースInterface Toolkitリファレンスガイド	コラボスペースのオブジェクトを処理するコマンドについて説明しています。
ワークフロー Interface Toolkitリファレンスガイド	ワークフローのオブジェクトを処理するコマンドについて説明しています。

■ クライアントユーザー向け

名称	概要
ポータル画面のヘルプ	ポータル画面で、お気に入りの編集、ユーザープロフィールを変更する操作について説明しています。 Webブラウザの操作画面にある【ヘルプ】から参照してください。
アドレス帳のヘルプ	アドレス帳で、ユーザー、グループ、ユーザーロール、およびタスクを検索する操作について説明しています。
ドキュメントスペースのヘルプ	ドキュメントスペースで、登録、属性の変更、検索などのドキュメントを管理する機能の操作について説明しています。
表示アプリケーションのヘルプ	表示アプリケーションで、ブラウザーイメージ変換された画像を編集する操作、およびユーザー設定について説明しています。
検索条件式のヘルプ	ドキュメントスペースの詳細検索で、全文検索または属性検索の条件式をXMLで指定するときの記述方法について説明しています。

名称	概要
簡易操作のヘルプ	簡易操作画面でドキュメントを管理する機能の操作、および操作画面の設定方法について説明しています。
コラボスペースのヘルプ	コラボスペースで、タスクの作成、メッセージの登録、および検索などの操作について説明しています。
ワークフローのヘルプ	ワークフローで、ワークフロー定義の作成、公開および起動する操作、作業を実行する操作について説明しています。
ドキュメント一括操作ツール説明書	Microsoft Excelを使って、ドキュメント管理サービスのオブジェクトを処理する操作について説明しています。
デスクトップクライアント セットアップガイド	デスクトップクライアントのセットアップ方法について説明しています。
デスクトップクライアント 操作説明書	デスクトップクライアントで、ドキュメント管理サービスのフォルダーやドキュメントにアクセスする操作方法について説明しています。
連携フォルダ for DocuWorks セットアップガイド	連携フォルダ for DocuWorksのセットアップ方法について説明しています。
連携フォルダ for DocuWorksの ヘルプ（*1）	DocuWorks Deskで、ArcSuiteに登録されているドキュメントを操作する方法について説明しています。

* 1: 連携フォルダ for DocuWorks をインストールした DocuWorks Desk のヘルプから参照してください。

本書の使い方

本書は、ArcSuiteのオンラインバックアップおよびリストアの操作について説明しています。

ArcSuiteのオンラインバックアップとリストアの操作の一連の流れをご理解いただくために、本書をお読みください。

■ 本書の構成

本書は、次の部、章、付録から構成されています。

◆ 第1部 バックアップとリストアの概要

1 概要

バックアップ・リストアの概要を説明しています。

2 オフラインバックアップとオンラインバックアップ

オフラインバックアップとオンラインバックアップの違いについて説明しています。

◆ 第2部 オンラインバックアップ

1 オンラインバックアップを始める前に

オンラインバックアップを始める前に確認しておくこと、バックアップするときに注意することを説明しています。

オンラインバックアップを実行する前に、必ずお読みください。

2 バックアップの操作

オンラインバックアップの操作を説明しています

◆ 第3部 リストア

1 既存のサーバーにデータをリストアする方法

既存のサーバーにバックアップデータをリストアするときの操作を説明します。

2 新規のサーバーにデータをリストアする方法

新規のサーバーにバックアップデータをリストアするときの操作を説明します。

付録

レジストリーのバックアップとリストアで使用するコマンド、「dbfiles.txt」ファイルの出力例、オンラインバックアップに必要な準備について確認するチェックリストを記載しています。

■ 本書の表記

- ・ 本書では、次の記号を使用しています。

< > キー	キーボードのキーを表します。 例：<Enter>キーを押します。
[]	画面に表示されるメニュー、ボタン、項目を表します。 例：[新規作成] をクリックします。
[]	同一マニュアル内の参照箇所を表します。 また、強調する用語やメッセージも表します。 例：「1 概要」 「名前が指定されていません。」と表示されます。
『 』	参照するマニュアルの名前を表します。 例：『システム管理者ガイド』
{ }	ユーザー名やサーバー名など、操作時に変わる値を表します。 例：[{ユーザー名}] をクリックします。
>	メニューやWebページの階層を表します。 例：[システムとセキュリティ] > [管理ツール]
注 記	一般的な注意事項を表します。
補 足	機能や操作に関する補足説明を表します。
参 照	参照する事項があることを表します。
<u> </u>	参照先タイトルやページへのリンクがあることを表します。 例： 「1 概要」 (P.6)

- ・ コマンドラインを次のように表記しています。

abc	画面に表示される文字列、またはユーザーが入力する文字列を表します。 例：showDrawerInformation
{abc}	ユーザー名やサーバー名など、操作時に変わる値を表します。 例：cabinetId {or RETURN} = {キャビネットID}

- ・ Microsoft Windows Operating System を「Windows」と表記しています。
- ・ パーソナルコンピュータを「PC」と表記しています。
- ・ お使いの環境によって、マニュアルに記載の画面と実際の画面が異なることがあります。
- ・ 特に表記がない場合の製品のバージョン番号は「4.0」です。

目次

第 1 部 バックアップとリストアの概要

1 概要

1.1	バックアップとは	13
1.2	リストアとは	14
1.2.1	リストアの種類	14
	既存のサーバーにデータをリストアする	14
	新規のサーバーにデータをリストアする	15

2 オフラインバックアップとオンラインバックアップ

2.1	オフラインバックアップ	17
2.1.1	運用の状態とクライアントコンピューターからの操作	18
2.2	オンラインバックアップ	19
2.2.1	運用の状態とクライアントコンピューターからの操作	20
2.3	オフラインバックアップとオンラインバックアップの違い	21

第 2 部 オンラインバックアップ

1 オンラインバックアップを始める前に

1.1	準備すること	24
	バックアップデータの保存先	24
	システム構成の確認	24
	関連するデータをインストールしたドライブの確認	24
	ArcSuite のバージョンの確認	24
	関連するサービスの確認	24
	ArcSuite の起動ユーザー、グループの確認	24
	バックアップするデータの確認	24
1.2	システム構成の確認	25
1.3	ArcSuite 関連のデータをインストールしたドライブの確認	26
1.3.1	ドライブを確認する	26
1.4	ArcSuite のバージョンの確認	27
1.4.1	ArcSuite のバージョンを確認する	27
1.5	サービスの確認	28
1.5.1	ArcSuite に関連するサービスを確認する	28
1.6	サービス起動ユーザーおよびグループの確認	29
1.6.1	サービス起動ユーザー、グループとは	29
1.6.2	サービスを起動するユーザー、グループを確認する	29
	サービスを起動するユーザーを確認する	29
	グループを確認する	29
1.7	必要なハードディスクの空き容量	30
1.7.1	データベースのアーカイブログのために必要なハードディスクの空き容量	30
1.7.2	スナップショットのために必要なハードディスクの空き容量	31
1.8	バックアップするデータの確認	32
1.8.1	インストール時および設定変更時にバックアップするデータ	32
1.8.2	定期的にバックアップするデータ	33

「表領域のデータファイル」、「一時表領域のデータファイル」、「制御ファイル」、「REDO ファイル」、「サーバーパラメータファイル」の格納場所を確認する	34
「ドロワーのストレージパスに指定したフォルダー」、「ごみ箱のストレージパスに指定した フォルダー」、「アーカイブ保存データの出力先」を確認する	36
「コラボスペースのインポートフォルダー」を確認する	37
「コラボスペースのタスクのアーカイブデータを出力するフォルダー」を確認する	37
「外部コマンドの配置フォルダー」を確認する	38
1.9 Microsoft Volume Shadow Copy Service の起動	39
2 バックアップの操作	41
2.1 オンラインバックアップ作業の流れ	41
2.2 OracleVssWriter {SID} の起動	43
2.2.1 OracleVssWriter {SID} を起動する	43
2.3 更新の一時停止と再開	44
2.4 更新の一時停止	45
2.4.1 更新を一時停止する	46
2.4.2 実行結果を確認する	46
戻り値が「0」の場合	47
戻り値が「1」の場合	47
2.4.3 「更新の一時停止処理を完了するまでの時間」のめやす	47
2.4.4 「更新の一時停止状態を継続する時間」のめやす	47
2.5 スナップショットの作成	48
2.5.1 すべてのドライブのスナップショットを作成する	48
実行結果を確認する	48
2.5.2 指定したドライブを除いてスナップショットを作成する	49
実行結果を確認する	50
2.6 更新の再開	51
2.6.1 更新の一時停止を解除する	51
2.6.2 実行結果を確認する	51
2.7 スナップショットのマウント	53
2.7.1 スナップショットをマウントする	53
2.7.2 実行結果を確認する	54
戻り値が「0」の場合	54
戻り値が「1」の場合	54
2.8 データのバックアップ	55
ArcSuite をインストールしたとき	55
ArcSuite の設定を変更したとき	55
定期的にバックアップを実行するとき	55
2.9 スナップショットのアンマウント	56
2.9.1 スナップショットをアンマウントする	56
2.9.2 実行結果を確認する	56
戻り値が「0」の場合	56
戻り値が「1」の場合	56
2.10 OracleVssWriter {SID} の停止	57
2.10.1 OracleVssWriter {SID} を停止する	57

第3部 リストア

1 既存のサーバーにデータをリストアする方法

1.1	既存のサーバーにデータをリストアする操作の流れ	59
1.2	キャプチャリングサービスがインストールされているサーバーでの操作の流れ	60
1.3	サービスの停止	61
1.3.1	サービスを停止する	61
1.3.2	データベースサービスが停止していることを確認する	62
1.4	データベースデータのリストア	63
1.4.1	リストアの対象となるデータ	63
1.4.2	運用データをリストアする	63
1.5	ユーザーホームデータのリストア	64
1.5.1	リストアするデータ	64
1.5.2	ユーザーホームデータをリストアする	64
1.6	データベースのサービスの起動	65
1.6.1	データベースのサービスを起動する	65
1.6.2	リカバリー処理のコマンドを実行する	65
	実行結果を確認する	66
1.7	ドキュメント管理サービスデータのリストア	67
1.7.1	リストアするデータ	67
1.7.2	ドキュメント管理サービスデータをリストアする	67
1.8	コラボスペースデータのリストア	68
1.8.1	リストアするデータ	68
1.8.2	コラボスペースデータをリストアする	68
1.9	ワークフローデータのリストア	69
1.9.1	リストアするデータ	69
1.9.2	ワークフローデータをリストアする	69
1.10	不要なデータの削除	70
1.10.1	リストアしたデータから不要なデータを削除する	70
	実行結果を確認する	70
1.11	サービスの起動	71
1.11.1	サービスを起動する	71

2 新規のサーバーにデータをリストアする方法

2.1	新規のサーバーにデータをリストアする操作の流れ	73
2.2	キャプチャリングサービスがインストールされているサーバーでの操作の流れ	75
2.3	リストアするときに注意すること	76
2.4	新規のサーバーで実施しておくこと	77
2.5	データベースの設置	78
2.6	データベースのサービスの停止	79
2.7	データベースデータのリストア	80
2.7.1	リストアの対象となるデータ	80
2.7.2	データベースサービスが停止していることを確認する	80
2.7.3	運用データをリストアする	80
2.7.4	設定データをリストアする	81
2.8	ユーザーホームデータのリストア	82
2.9	データベースサービスの起動	83

2.10	レジストリーのリストア	84
2.11	ドキュメント管理サービスデータのリストア	85
2.11.1	リストアするデータ	85
2.11.2	ドキュメント管理サービスデータをリストアする	85
2.12	コラボスペースデータのリストア	86
2.12.1	リストアするデータ	86
2.12.2	コラボスペースデータをリストアする	86
2.13	ワークフローデータのリストア	87
2.13.1	リストアするデータ	87
2.13.2	ワークフローデータをリストアする	87
2.14	アップデーター、ホットフィックス情報の削除	88
2.15	ArcSuite のインストール	89
2.16	「mime.types」ファイルのリストア	90
2.16.1	リストアするデータ	90
2.16.2	「mime.types」ファイルをリストアする	90
2.17	アップデーター、ホットフィックスの適用	91
2.18	不要なデータの削除	92
2.19	サービスの起動	93
2.19.1	サービスを起動する	93
2.20	ライセンスの認証	95

付録

付録A	レジストリーのバックアップとリストア	97
付録 A.1	レジストリーをバックアップする	97
付録 A.2	レジストリーをリストアする	97
付録B	「dbfiles.txt」ファイルの出力例	98
付録C	バックアップのためのチェックリスト	99

第1部 バックアップとリストアの概要

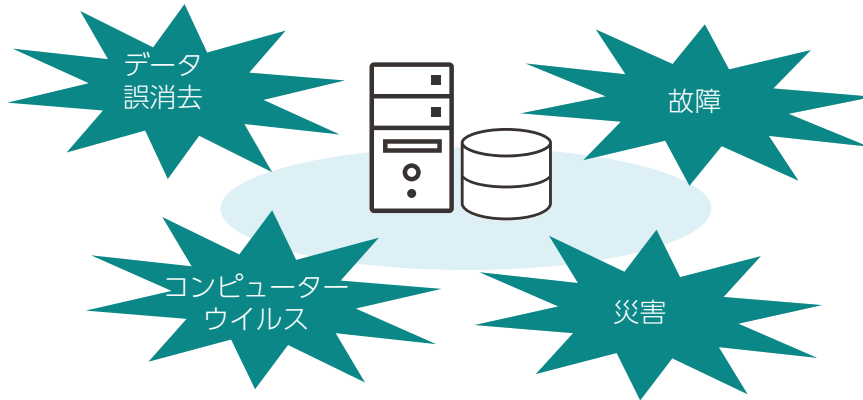
1 概要

バックアップ、リストアの概要を説明します。

1.1 バックアップとは

バックアップとは、データの複製を用意しておくことです。

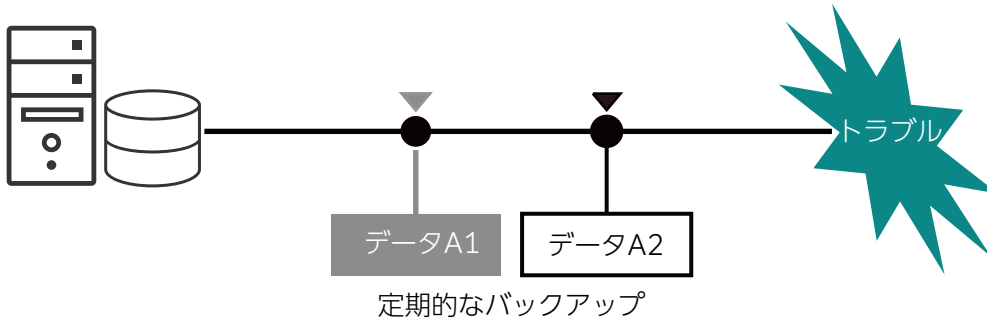
システムの運用中にハードウェアの故障または災害、ユーザーの操作ミスによってデータが消去されたり、コンピューターウイルスによってデータが改ざんされたりなど、なんらかのトラブルによってサーバーが利用できず、システムが停止してしまうことがあります。このような場合に備えて、システムのバックアップを定期的に行い、そのデータを管理します。



ArcSuiteを設置したあと、運用を開始する前に、必要なデータのすべてをバックアップすることを推奨します。

また、運用を開始したあとは、定期的にバックアップを実行することを推奨します。

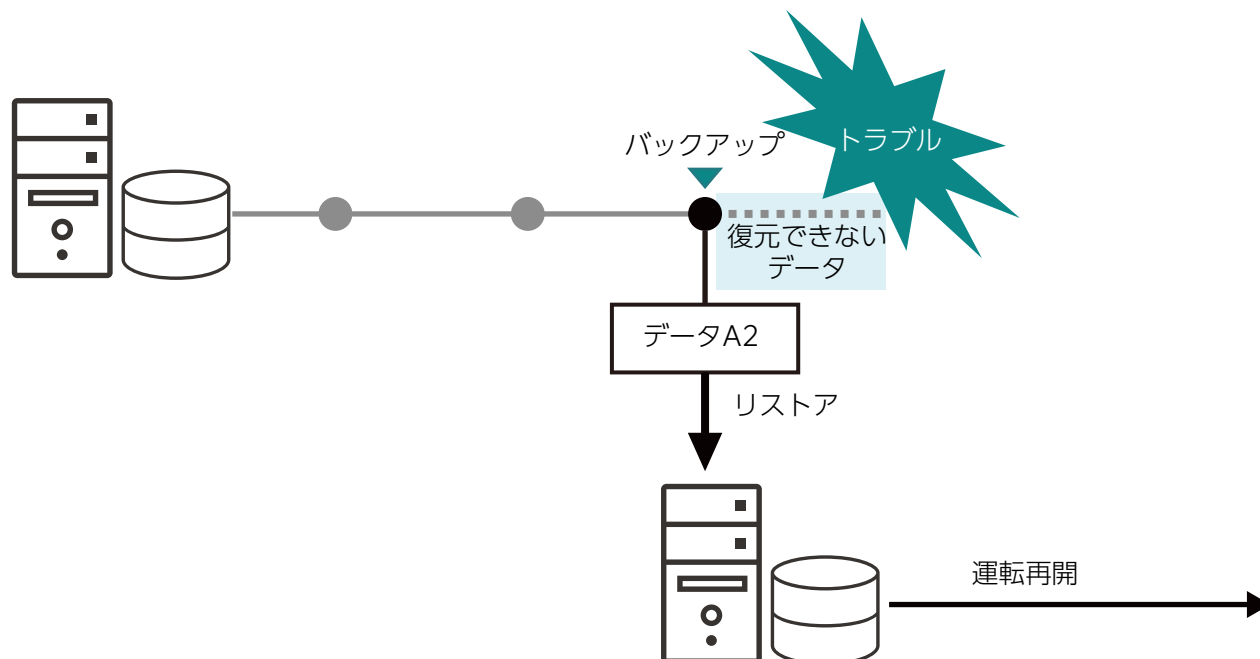
運用を開始する前のバックアップデータ（図では「データA」）は、システムを復旧するときに使用します。定期的なバックアップデータのうち、最新のバックアップデータ（図では「データB2」）を使用して、バックアップを取得した時点に戻って運用を再開できます。



1.2 リストアとは

リストアとは、バックアップしたデータを復元することです。

あらかじめバックアップしておいたデータをリストアすることで、バックアップを実行した時点まで戻り、システムの運用を再開できます。



補足 ArcSuite では、バックアップを実行した時点と同じ設定でデータをリストアします。このため、リストアを実行するときに FQDN や IP アドレスの変更はできません。

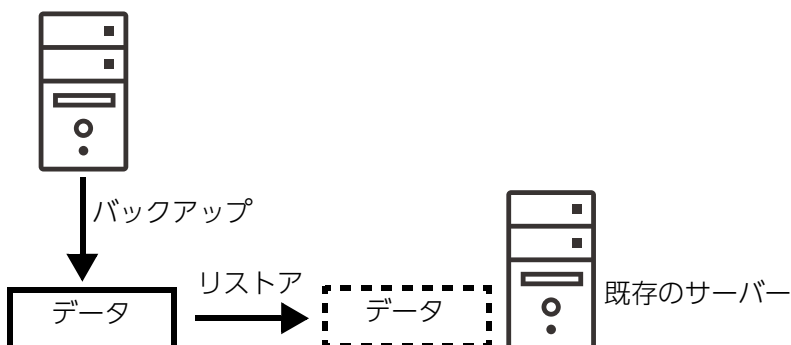
1.2.1 リストアの種類

リストアには、既存のサーバーにバックアップデータをリストアする方法と、新規のサーバーにバックアップデータをリストアする方法の2つの方法があります。

既存のサーバーにデータをリストアする

バックアップデータを作成したサーバーにデータをリストアして、運用を再開する方法です。

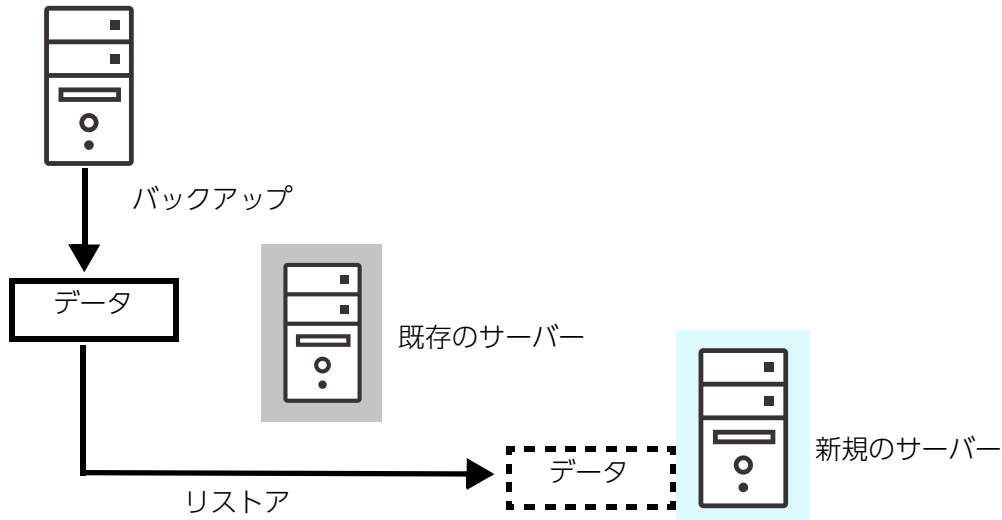
ArcSuiteのデータが、ユーザーの操作ミスによって消去されたり、コンピューターウイルスによって改ざんされたりしたときに、バックアップデータを作成したサーバーに、データをリストアして利用できます。



新規のサーバーにデータをリストアする

新しくサーバーを用意し、データベースの設置、ArcSuiteのインストールなどを実行して、バックアップデータを取ったサーバーと同じ環境にします。そのあと、バックアップデータをリストアして、運用を再開する方法です。

ハードウェアの故障または災害によってサーバーが利用できなくなってしまったとき、現在のハードウェアより性能が高いハードウェアに移設するときには、新しいサーバーにバックアップデータをリストアします。





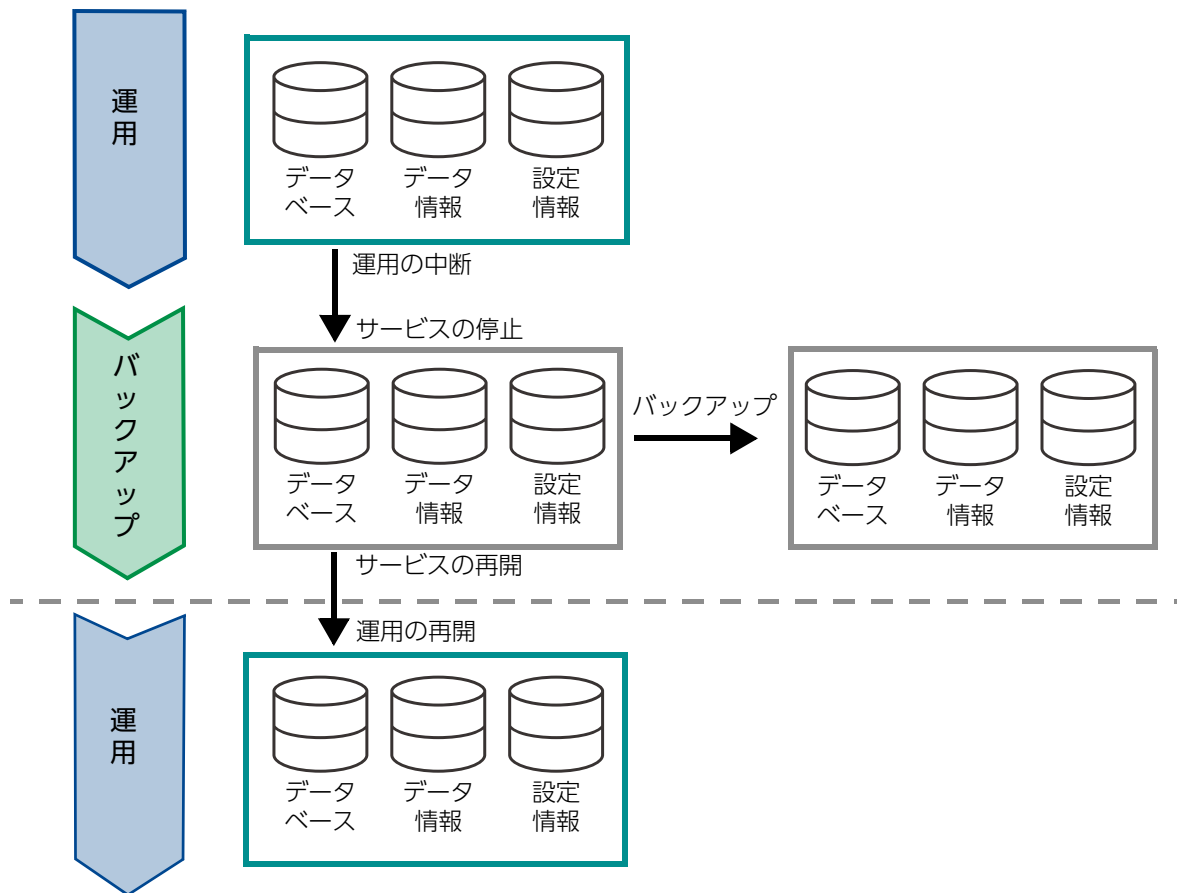
2 オフラインバックアップとオンラインバックアップ

この章では、オフラインバックアップとオンラインバックアップの違いについて説明します。

2.1 オフラインバックアップ

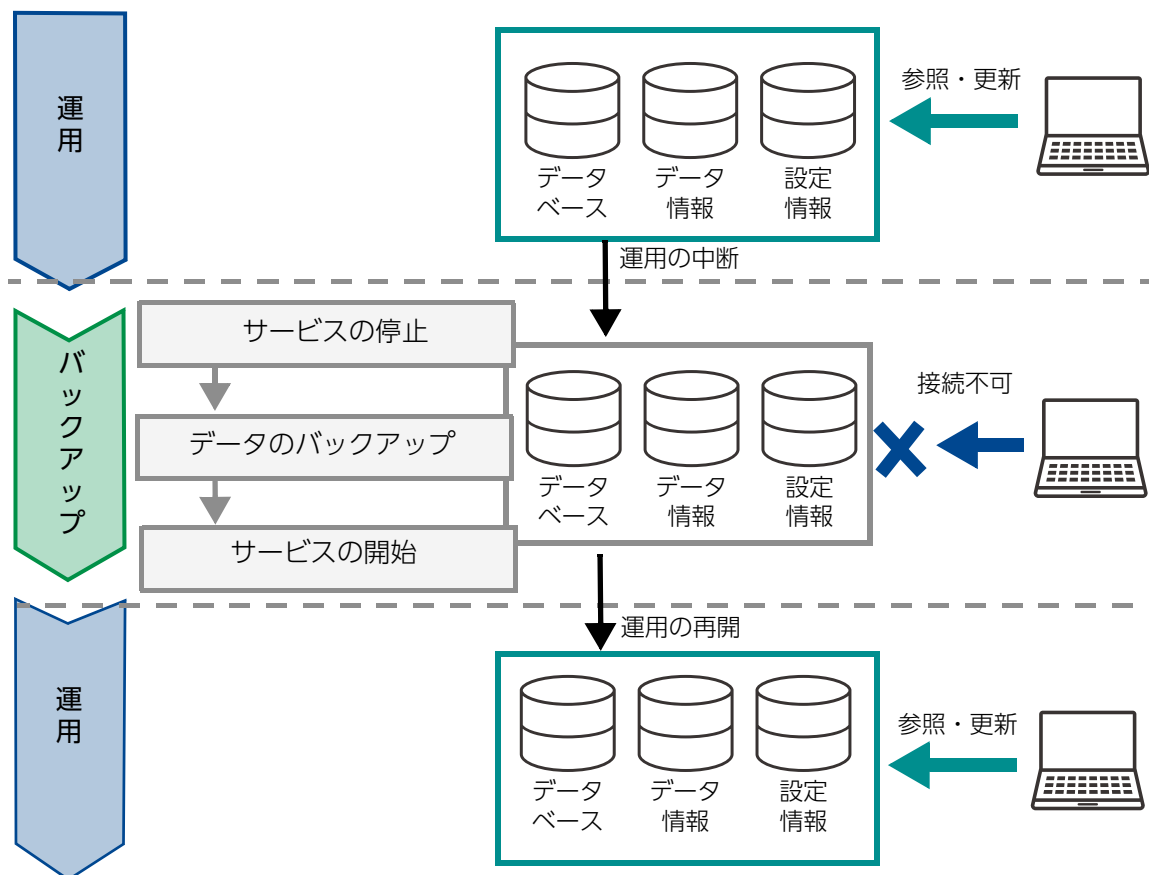
オフラインバックアップでは、システムを構成しているサーバーにインストールされているArcSuiteのサービスを、すべて停止したあと、バックアップを実行します。

この方法は、「コールドバックアップ」とも呼ばれます。ArcSuiteのサービスが停止している間は、ArcSuiteが利用できなくなるので、あらかじめ運用を中断する時間を決めておく必要があります。



2.1.1 運用の状態とクライアントコンピューターからの操作

オフラインバックアップでは、バックアップのために運用を中断してから、運用を再開するまでの間は、クライアントコンピューターからは、ArcSuiteに接続できなくなります。

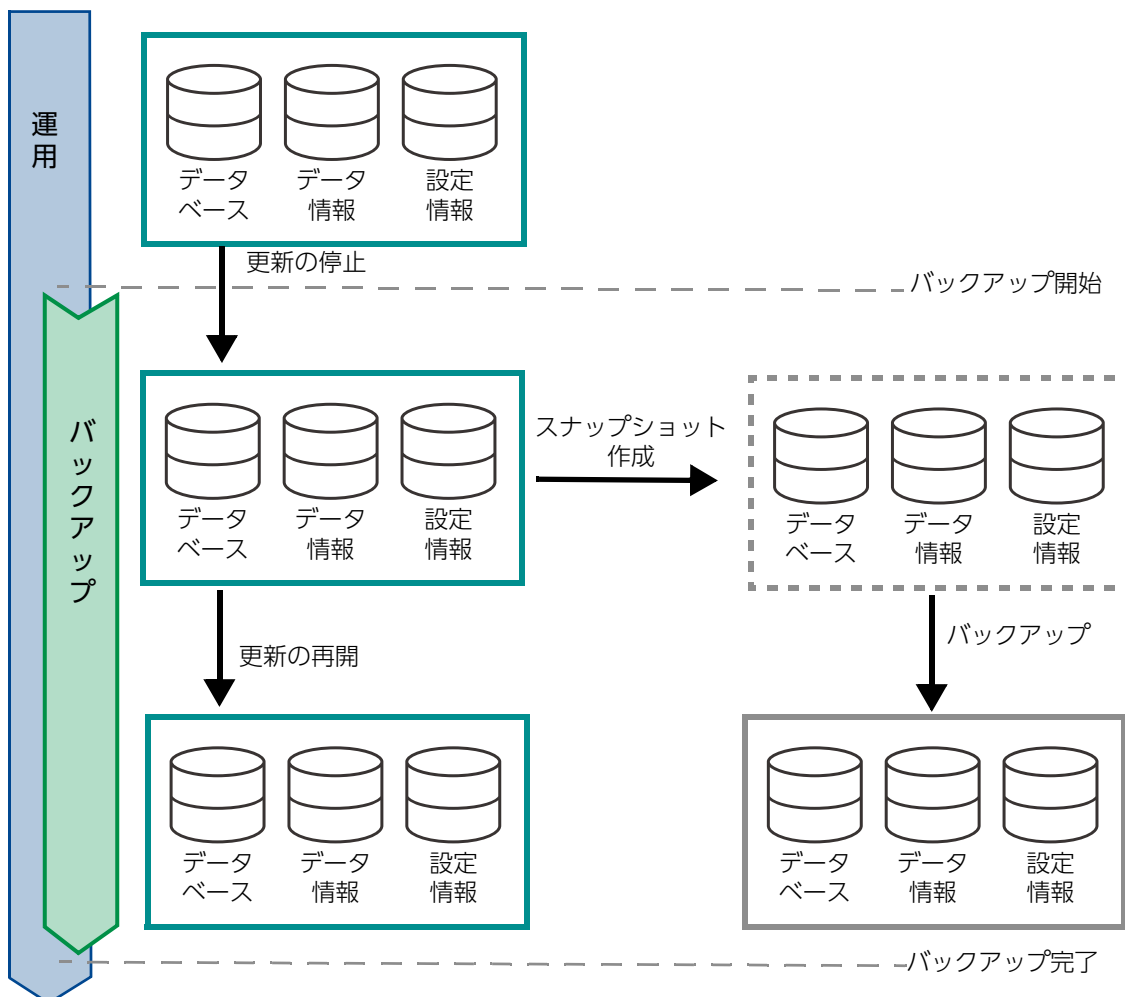


2.2 オンラインバックアップ

オンラインバックアップでは、ArcSuiteのサービスを停止せずにバックアップを実行できます。

この方法は、「ホットバックアップ」とも呼ばれます。ArcSuiteの運用を、参照だけが可能な状態（更新の停止）にして、その間に「スナップショット」を作成します。ArcSuiteの運用を再開（更新の再開）したあと、スナップショットからバックアップデータを作成します。

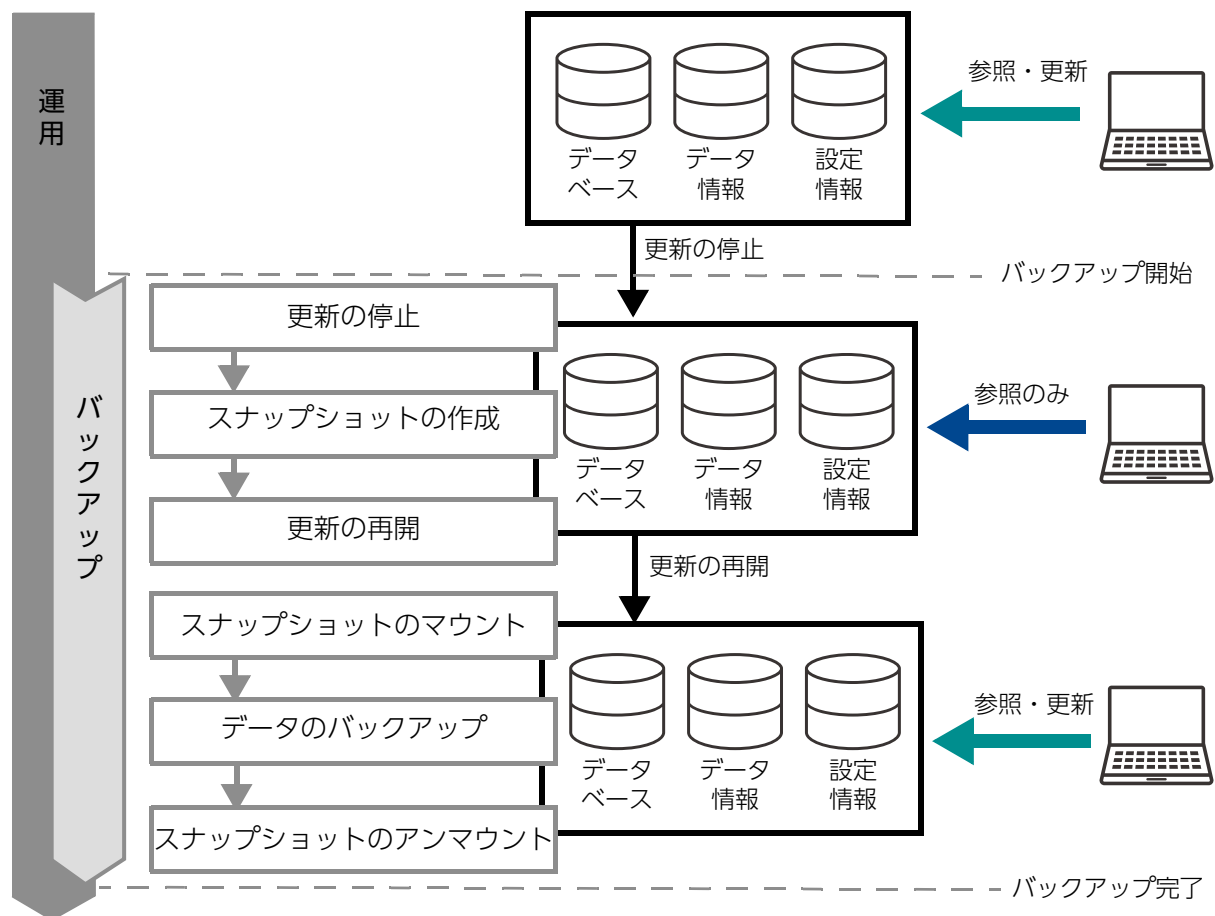
オンラインバックアップは、ArcSuiteを常に稼働して運用する場合に便利です。



補足 オンラインバックアップは、お使いの商品構成によっては、提供されないことがあります。

2.2.1 運用の状態とクライアントコンピューターからの操作

オンラインバックアップでは、バックアップのために更新を停止し更新を再開するまでの間は、クライアントコンピューターからできる操作は参照だけです。



2.3 オフラインバックアップとオンラインバックアップの違い

オフラインバックアップ、オンラインバックアップが可能な環境について説明します。それぞれの方法には、次のような違いがあります。

項目	オフラインバックアップ	オンラインバックアップ
バックアップを実行するために必要なライセンス	なし	オンラインバックアップオプション 補足 オンラインバックアップを実行するには、ArcSuiteをインストールするときに、「オンラインバックアップオプション」を、同時にインストールしておく必要があります。
バックアップ中のArcSuiteの操作制限	すべての操作ができない (接続ができない)	データを更新できない (閲覧などの参照だけができる)
標準的なバックアップ時間	数時間～数十時間 補足 データ量やバックアップ先の記憶装置、ネットワークの転送スピードなどによって変わります。	数分 補足 バックアップ対象のデータが格納されているハードディスクのスナップショットを作成する時間によって変わります。
対応しているシステムの構成	限定なし 注記 ただし、『オフラインバックアップ・リストア運用ガイド』では、「オールインワン構成」、「2台構成」の場合のバックアップとリストアについて説明しています。	オールインワン構成のみ 注記 ただし、次の機能がインストールされているオールインワン構成の環境では、オンラインバックアップを実行できません。 ・統合検索サービス ・ArcEPS®
データベースのインストール先ドライブ	限定なし	システムドライブ以外 注記 システムドライブ以外にインストールすることを推奨します。システムドライブにインストールすると、オンラインバックアップを実行したときに、バックアップに時間がかかり、ArcSuiteを更新できない時間が長くなる場合があります。
ArcSuiteのユーザーホームのインストール先ドライブ	限定なし	システムドライブ以外 注記 システムドライブ以外にインストールすることを推奨します。システムドライブにインストールすると、オンラインバックアップを実行したときに、バックアップに時間がかかり、ArcSuiteを更新できない時間が長くなる場合があります。
バックアップに必要なハードディスクの空き容量	バックアップデータを格納できる容量	次の2つのデータを格納できる容量 ・バックアップデータ ・スナップショット
バックアップする直前に必要なArcSuiteに関連するサービスの操作	ArcSuiteの各サービスを停止する	ArcSuiteの更新を一時的に停止する

項目	オフラインバックアップ	オンラインバックアップ
バックアップの操作手段	バックアップソフトウェアを利用して、バックアップデータをコピーする	・更新の一時停止やスナップショットの作成などのコマンドを実行する ・バックアップソフトウェアを利用して、スナップショットからバックアップデータをコピーする
バックアップしたあとで必要な ArcSuite に関連するサービスの操作	ArcSuiteの各サービスを起動する	特になし

補 足 「ArcSuite のユーザーホームのインストール先ドライブ」とは、ArcSuite をインストールしたときに、「データ格納先」として指定したドライブのことをいいます。

第2部 オンラインバックアップ

1 オンラインバックアップを始める前に

この章では、オンラインバックアップを始める前に準備すること、確認するとの概要について説明します。

1.1 準備すること

バックアップを始める前に、必要な準備について説明します。

[\[付録C バックアップのためのチェックリスト\] \(P.99\)](#) を利用して、お使いの環境をあらかじめ確認しておくことを推奨します。

バックアップデータの保存先

バックアップデータを保存するための記憶装置（外付けのハードディスクドライブ、バックアップ専用サーバー）、またはメディア（テープ）などをあらかじめ用意しておきます。

システム構成の確認

ArcSuiteサーバーの構成を確認しておきます。

参照 システム構成については、[\[1.2 システム構成の確認\] \(P.25\)](#) を参照してください。

関連するデータをインストールしたドライブの確認

ArcSuiteに関連するデータをインストールしたドライブを確認しておきます。

参照 インストールしたドライブの確認方法は、[\[1.3 ArcSuite 関連のデータをインストールしたドライブの確認\] \(P.26\)](#) を参照してください。

ArcSuite のバージョンの確認

ArcSuiteをインストールしたあと適用したアップデーターのバージョン、およびホットフィックスのバージョンを確認しておきます。

参照 確認方法は、[\[1.4 ArcSuite のバージョンの確認\] \(P.27\)](#) を参照してください。

関連するサービスの確認

ArcSuiteに関連するサービスを確認しておきます。

参照 確認するサービス、確認方法は、[\[1.5 サービスの確認\] \(P.28\)](#) を参照してください。

ArcSuite の起動ユーザー、グループの確認

ArcSuiteをインストールしたときに設定した起動ユーザー、グループを確認しておきます。

参照 確認方法は、[\[1.6.2 サービスを起動するユーザー、グループを確認する\] \(P.29\)](#) を参照してください。

バックアップするデータの確認

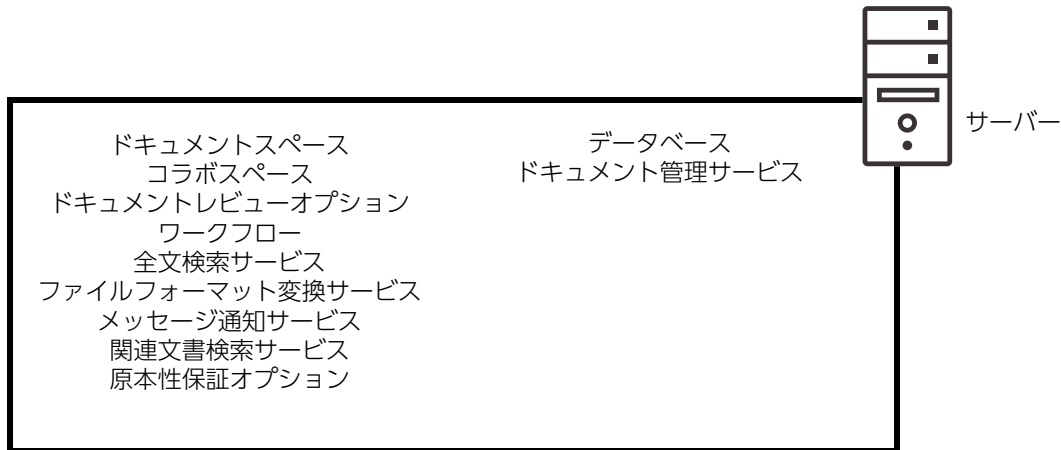
バックアップが必要なデータの格納場所を確認しておきます。

参照 バックアップが必要なデータの格納場所と確認方法は、[\[1.8 バックアップするデータの確認\] \(P.32\)](#) を参照してください。

1.2 システム構成の確認

使用している環境のシステム構成を確認します。

オンラインバックアップは、「オールインワン構成」でだけ実施できます。「オールインワン構成」とは、統合検索サービス、キャプチャリングサービスを除くコンポーネントが、1台のサーバーに設置されている環境です。



お使いの商品構成によっては、提供されないコンポーネントがあります。

- 注記**
- ・統合検索サービス、または ArcEPS がインストールされている環境では、オンラインバックアップを実行できません。
 - ・次の機能がインストールされている環境でもオンラインバックアップを実行することはできません。
 - キャプチャリングサービス
 - ドキュメント管理サービス SDK
 - コラボスペース Interface Toolkit
 - ワークフロー Interface Toolkit
 - ドキュメント管理サービス管理アプリケーション（デスクトップ版）
 - ドキュメント一括操作ツール
 - デスクトップクライアント
 - 連携フォルダ for DocuWorks

1.3 ArcSuite 関連のデータをインストールしたドライブの確認

ArcSuite関連のデータをインストールしたドライブを、あらかじめ確認しておきます。インストールしたドライブが、システムドライブ以外であることを確認します。システムドライブとは、WindowsのOS関連のデータをインストールしたドライブです。

1.3.1 ドライブを確認する

次のデータをインストールするときに指定したドライブ名を確認します。システムドライブ以外であることを確認します。

データ	インストール場所
データベース	{データベースをインストールしたドライブ} :¥ {データベースをインストールしたフォルダー}
ユーザーホーム	{ArcSuiteをインストールしたドライブ} :¥ArcSuite

注記 データベースまたはユーザーホームは、システムドライブ以外にインストールすることを推奨します。システムドライブにインストールすると、オンラインバックアップを実行したときに、バックアップに時間がかかり、ArcSuite を更新できない時間が長くなる場合があります。

補足

- ・ {データベースをインストールしたドライブ}、{ArcSuite をインストールしたドライブ} のデフォルトは、「{システムドライブ以外で最大容量のドライブ}」です。
- ・ {データベースをインストールしたフォルダー} のデフォルトは、「Database」です。

1.4 ArcSuite のバージョンの確認

ArcSuiteをインストールしたあと、適用したアップデーターのバージョン、およびホットフィックスのバージョンを、確認しておきます。

アップデーターのバージョン、ホットフィックスのバージョンは、新規のサーバーにリストアする場合に必要です。

1.4.1 ArcSuite のバージョンを確認する

ArcSuite 4.0.0以降のアップデーターのバージョン、ホットフィックスのバージョンを確認します。

1. ArcSuite がインストールされているサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. Windows の [スタート] メニューから、[コントロールパネル] を選択します。
[コントロールパネル] 画面が表示されます。
3. [プログラム] > [プログラムと機能] をクリックします。
[プログラムと機能] 画面が表示されます。
4. 右上の表示設定プルダウンメニューから [詳細] を選択します。
一覧に詳細が表示されます。
5. [ArcSuite] のバージョンが「4.0.x」であることを確認します。

補 足 x は 0 以降を表します。

1.5 サービスの確認

インストールされているArcSuiteに関連するサービスを、あらかじめ確認しておきます。

1.5.1 ArcSuite に関連するサービスを確認する

ArcSuiteに関連するサービスを確認します。

補足 {SID} は、データベースをインストールしたときに、[データベースのサーバー情報] 画面で「グローバルデータベース名」に入力した値から、最初の「.」（ピリオド）までの値です。「.」（ピリオド）がない場合は、入力したグローバルデータベース名そのまま表示されます。たとえば、「server1.example.com」と入力すると、{SID} には「SERVER1」と表示されます。

1. ArcSuite がインストールされているサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. Windows の [スタート] メニューから、[Windows 管理ツール] > [サービス] を選択します。
[サービス] 画面が表示されます。
3. サービスを確認します。

インストーラーの [インストールする機能] で 選択した項目	サービス
ファイルフォーマット変換サービス	ArcSuite Basic Service
メッセージ通知サービス	
ドキュメント管理サービス	ArcSuite Repository Service
	ArcSuite Repository Master Admin Service
ドキュメントスペース	ArcSuite Web Application Service
ワークフロー	
原本性保証オプション	
全文検索サービス	ArcSuite Full Text Search Service
関連文書検索サービス	ArcSuite kSearchDuo Service
ファイルフォーマット変換サービス	FX Doc Cnv Helper DocuWorks Print Service
コラボスペース	ArcSuite Collabo Service
(必ずインストールされる項目)	ArcSuite Monitoring Service
	OracleOraDB19Home1TNSListener
	OracleVssWriter {SID}
	OracleOraDB19Home1MTSRecoveryService
	OracleRemExecServiceV2
	OracleJobScheduler {SID}
	OracleService {SID}

補足 インストールされている機能は、お使いの商品構成によって異なります。

1.6 サービス起動ユーザーおよびグループの確認

ArcSuiteのインストール時に設定した、ArcSuiteのサービスを起動するユーザーおよびグループの名前を確認しておきます。

サービスを起動するユーザーおよびグループは、リストアするときに必要です。

1.6.1 サービス起動ユーザー、グループとは

サービス起動ユーザーのユーザー名とパスワードは、インストール時に [サービス起動ユーザー情報] 画面で指定した値です。

グループのグループ名は、インストール時に [サービス起動ユーザーのグループ情報] 画面で指定した値です。

インストール時のデフォルトの値は、それぞれ次のとおりです。

- ・ユーザー名
ARCUSRSVC
- ・グループ名
ARCGRPSVC

1.6.2 サービスを起動するユーザー、グループを確認する

サービスを起動するユーザーを確認する

1. ArcSuite がインストールされているサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. Windows の [スタート] メニューから、[Windows 管理ツール] > [サービス] を選択します。
[サービス] 画面が表示されます。
3. 起動ユーザーを確認するサービスを選択します。
補足 たとえば、「ArcSuite Basic Service」を選択します。
4. [操作] メニューから、[プロパティ] を選択します。
[(ローカル コンピュータ) {サービス名} のプロパティ] 画面が表示されます。
5. [ログオン] タブを表示します。
6. [アカウント] に表示されているユーザー名を確認します。

グループを確認する

1. ArcSuite がインストールされているサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. [スタート] ボタンを右クリックし、[コンピューターの管理] を選択します。
[コンピューターの管理] 画面が表示されます。
3. 左側のツリーで、[ローカルユーザーとグループ] > [グループ] を選択します。
4. 表示されているグループの中に、インストール時に指定したグループ名があるかどうかを確認します。

1.7 必要なハードディスクの空き容量

バックアップを実行する前に、ArcSuiteがインストールされているサーバーで、ハードディスクの空き容量を確認しておきます。

ArcSuiteがインストールされているサーバーには、ArcSuiteの動作に必要な容量のほかに、次のデータを格納できる空き容量が必要です。

- ・データベースのアーカイブログ
- ・スナップショット

必要なハードディスク容量は運用に応じて異なります。ここでは、必要な空き容量の参考値について説明します。

1.7.1 データベースのアーカイブログのために必要なハードディスクの空き容量

データベースのアーカイブログは、データベースの更新情報を記録したファイルです。データベースの稼働に合わせて日々作成されます。アーカイブログを格納するには、1日あたり約1,000 MB（1 GB）の容量が必要です。

1日あたり必要とするハードディスク空き容量の内訳は次のとおりです。

項目	件数	アーカイブログが必要とするディスクの空き容量
システム属性だけに設定された場所に登録するオブジェクト	10,000	350 MB
全文検索インデックスの初期化およびインデックスを更新するオブジェクトの件数	7,000	210 MB
関連文書検索インデックスの初期化およびインデックスを更新するオブジェクトの件数	7,000	28 MB
システム属性だけに設定された場所に登録されたオブジェクトのコピー	1,000	18 MB
システム属性だけに設定された場所に登録されたオブジェクトの削除	1,000	3 MB
属性の変更をするオブジェクトの件数	7,000	200 MB
稼働するだけで必要な領域	-	120 MB
合計		929 MB 約1,000 MB（1 GB）

補足 アーカイブログのサイズは、登録されたオブジェクトの数、検索インデックスを更新した数などによって変わります。このため、バックアップを実行する間隔の日数分のアーカイブログを保存できる容量が必要です。
 $(\{1 \text{ 日の稼働で作成されるアーカイブログのサイズ}\} \times \{\text{バックアップ間隔の日数}\})$
 たとえば、1週間に1度（7日おき）、オンラインバックアップ機能を使用してバックアップを実行する場合は、「1,000 MB（1 GB）× 7日 = 7,000 MB（7 GB）」となり、約7 GBのハードディスクの空き容量が必要になります。

注記 最長でも10日以内の間隔でバックアップを実行してください。

1.7.2 スナップショットのために必要なハードディスクの空き容量

オンラインバックアップでバックアップデータを作成するには、一時的にスナップショットを作成するためのハードディスクの空き容量が必要です。

スナップショットを作成するとき、最大でディスクサイズの5%を使用します。たとえば、500 GBの容量があるドライブで、データベースとユーザーホームのスナップショットを作成すると、25 GBを使用します。

スナップショットが必要とするハードディスク空き容量の参考値は次のとおりです。

スナップ ショットの サイズ	ディスク内 データの 合計サイズ	データの内訳					
		データベース		コンテンツ		ユーザーホーム	
		サイズ	ファイル数	サイズ	ファイル数	サイズ	ファイル数
10 GB	33 GB	32 GB	41,150	240 MB	66,000	200 MB	453
3 GB	83 GB	82 GB	41,200	370 MB	86,000	200 MB	453
3 GB	133 GB	132 GB	41,250	500 MB	106,000	200 MB	453
3 GB	183 GB	182 GB	41,300	630 MB	126,000	200 MB	453
3 GB	233 GB	252 GB	41,350	760 MB	146,000	200 MB	453
3 GB	283 GB	282 GB	41,400	860 MB	166,000	200 MB	453

初めてスナップショットを作成するときは、スナップショットのサイズが大きくなる場合があります。この参考値よりも多いハードディスクの空き容量が必要です。

2回め以降は、スナップショットのサイズがほぼ同じサイズになるので、その値を必要なハードディスクの空き容量のめやすとしてください。

注記 余裕を持った空き容量を確保してください。また、数か月ごとに容量を確認し、空き容量が少なくなった場合は、空き容量を確保したり、バックアップのスケジュールを見直したりしてください。

1.8 バックアップするデータの確認

ArcSuiteでは、次のデータのバックアップが必要です。

- ・ [インストール時および設定変更時にバックアップするデータ](#)
- ・ [定期的にバックアップするデータ](#)

「インストール時および設定変更時にバックアップするデータ」は、新規のサーバーにデータをリストアするときに使います。「定期的にバックアップするデータ」は、新規のサーバー、既存のサーバーのどちらの場合でも、最近のバックアップデータを使用してバックアップデータの時点に戻って運用を再開するときに使います。インストール、再インストール、およびバージョンアップしたあとは、「インストール時および設定変更時にバックアップするデータ」と「定期的にバックアップするデータ」の両方をバックアップします。それ以外の場合には、「定期的にバックアップするデータ」をバックアップします。

補足 「インストール時および設定変更時にバックアップするデータ」も、「定期的にバックアップするデータ」と一緒に、毎回バックアップしておくことを推奨します。

1.8.1 インストール時および設定変更時にバックアップするデータ

インストールした直後、再インストールした直後、およびバージョンアップした直後の設定データをバックアップします。次の設定データの格納場所を探してバックアップを実行します。

- ・ レジストリーの設定データ
- ・ データベースの設定データ
- ・ ArcSuite の設定データ

設定データの種類	フォルダー／ファイル名	格納場所
レジストリーの設定データ	(ArcSuiteにあるレジストリーキー)	・ %HKEY_LOCAL_MACHINE%SOFTWARE\FUJIFILM%ArcSuite ・ %HKEY_LOCAL_MACHINE%SOFTWAREWow6432Node\FUJIFILM%ArcSuite
データベースの設定データ	PWD {SID} .ora	{データベースをインストールしたドライブ} ¥ {データベースをインストールしたフォルダー} ¥ dbhome_1¥database¥
	listener.ora	{データベースをインストールしたドライブ} ¥ {データベースをインストールしたフォルダー} ¥ dbhome_1¥network¥admin¥
	tnsnames.ora	
	sqlnet.ora	
	「{ホスト名_SID}」 フォルダー 補足 ファイルが存在する場合にバックアップが必要です。	{データベースをインストールしたドライブ} ¥ {データベースをインストールしたフォルダー} ¥ dbhome_1¥
ArcSuite の設定データ	[sysman] フォルダー	
	mime.types 補足 ファイルが存在する場合にバックアップが必要です。	{ArcSuiteのプログラムホーム} ¥ Service¥Java¥jre¥lib

補足 ・ {ArcSuite のプログラムホーム} のデフォルトは、「C:\Program Files\FUJIFILM%ArcSuite」です。

- ・ {データベースをインストールしたドライブ} のデフォルトは、「{システムドライブ以外で最大容量のドライブ}」です。
- ・ {データベースをインストールしたフォルダー} のデフォルトは、「Database」です。
- ・ データベースのバージョンは、次の手順で確認できます。
 1. [コントロールパネル] 画面で [プログラム] の [プログラムのアンインストール] をクリックします。
 2. [プログラムと機能] ウィンドウが表示されます。
 3. 「ArcSuite データベース」を選択します。
 4. 画面下に表示された [製品バージョン] のバージョン番号を確認します。

参照 {SID} については、[「1.5.1 ArcSuite に関連するサービスを確認する」\(P.28\)](#) で説明しています。参照してください。

1.8.2 定期的にバックアップするデータ

運用を開始したあとに定期的にデータをバックアップします。次のデータの格納場所を探して定期的にバックアップを実行します。

- ・ データベースの運用データ
- ・ ユーザーホームのデータ
- ・ ドキュメント管理サービスのデータ
- ・ コラボスペースのデータ
- ・ ワークフローのデータ

データの種類	フォルダー／ファイル名	格納場所
データベースの運用データ	表領域のデータファイル	参照 「[表領域のデータファイル]、[一時表領域のデータファイル]、[制御ファイル]、[REDOファイル]、[サーバーパラメーターファイル]の格納場所を確認する」(P.34) を参照して、確認してください。
	一時表領域のデータファイル	
	制御ファイル	
	REDOファイル	
	サーバーパラメーターファイル	
	アーカイブログファイル	{オンラインバックアップ機能をインストールしたときに設定したアーカイブログの出力先} ¥
	[fast_recovery_area] フォルダー	{データベースをインストールしたドライブ} :¥ {データベースをインストールしたフォルダー} ¥
	[diag] フォルダー	
ユーザーホームのデータ	Service	{ArcSuiteのユーザーホーム} ¥
ドキュメント管理サービスのデータ	ドロワーのストレージパスに指定したフォルダー	参照 「[ドロワーのストレージパスに指定したフォルダー]、[ごみ箱のストレージパスに指定したフォルダー]、[アーカイブ保存データの出力先]を確認する」(P.36) を参照して、確認してください。
	ごみ箱のストレージパスに指定したフォルダー	
	アーカイブ保存データの出力先フォルダー	

データの種類	フォルダー／ファイル名	格納場所
コラボスペースのデータ	コラボスペースのインポートフォルダー 補足 コラボスペースがインストールされている場合にバックアップが必要です。	参照 「[コラボスペースのインポートフォルダー]を確認する」(P.37) を参照して、確認してください。
	コラボスペースのタスクのアーカイブデータを出力するフォルダー 補足 コラボスペースがインストールされている場合にバックアップが必要です。	参照 「[コラボスペースのタスクのアーカイブデータを出力するフォルダー]を確認する」(P.37) を参照して、確認してください。
ワークフローのデータ	外部コマンドの配置フォルダーおよび実行ファイル	参照 「[外部コマンドの配置フォルダー]を確認する」(P.38) を参照して、確認してください。

- 補足**
- ・ {ArcSuite のユーザーホーム} のデフォルトは、「{システムドライブ以外で最大容量のドライブ} :¥ArcSuite」です。
 - ・ {オンラインバックアップ機能をインストールしたときに設定したアーカイブログの出力先} のデフォルトは、「{システムドライブ以外で最大容量のドライブ} :¥Database¥ArchiveLogArea」です。
 - ・ {データベースをインストールしたドライブ} のデフォルトは、「{システムドライブ以外で最大容量のドライブ}」です。
 - ・ {データベースをインストールしたフォルダー} のデフォルトは、「Database」です。

「表領域のデータファイル」、「一時表領域のデータファイル」、「制御ファイル」、「REDO ファイル」、「サーバーパラメータファイル」の格納場所を確認する

1. ArcSuite がインストールされているサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. Windows の [スタート] メニューから、[Windows システムツール] > [コマンドプロンプト] を右クリックし、[その他] > [管理者として実行] を選択します。
[管理者：コマンド プロンプト] 画面が表示されます。
3. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
cd /d {データベースをインストールしたドライブ} :¥ {データベースをインストールしたフォルダー} ¥tools_4.0
```

- 補足**
- ・ {データベースをインストールしたドライブ} のデフォルトは、「{システムドライブ以外で最大容量のドライブ}」です。
 - ・ {データベースをインストールしたフォルダー} のデフォルトは、「Database」です。

4. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
cscript //nologo list-dbfiles.wsf
```

バックアップ対象のファイル一覧が、「{データベースをインストールしたドライブ} :¥ {データベースをインストールしたフォルダー} ¥tools_4.0」に「dbfiles.txt」の名前で出力されます。

5. 「dbfiles.txt」ファイルを開いて、「表領域のデータファイル」、「一時表領域のデータファイル」、「制御ファイル」、「REDO ファイル」、「サーバーパラメータファイル」の格納場所を確認します。

- 注記** 「{データベースをインストールしたドライブ} :¥ {データベースをインストールしたフォルダー} ¥tools_4.0」に、「dbfiles.txt」と同じ名前のファイルを保存しないでください。コマンド実行時に上書きされます。

参 照 「dbfile.txt」 ファイルの例は、[「付録 B 「dbfiles.txt」 ファイルの出力例」 \(P.98\)](#) を参照してください。

「ドローのストレージパスに指定したフォルダー」、「ごみ箱のストレージパスに指定したフォルダー」、「アーカイブ保存データの出力先」を確認する

1. ArcSuite がインストールされているサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. Windows の [スタート] メニューから、[Windows システムツール] > [コマンドプロンプト] を右クリックし、[その他] > [管理者として実行] を選択します。
[管理者：コマンド プロンプト] 画面が表示されます。
3. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
cd /d {ArcSuite のプログラムホーム} %Service%Components%Repository%bin
```

補足 {ArcSuite のプログラムホーム} のデフォルトは、[C:%Program Files%FUJIFILM%ArcSuite] です。

4. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
dradmincmd.bat
```

次のメッセージが表示されます。

```
コマンド実行ユーザーを設定してください。
userName =
```

5. ドキュメント管理サービス管理者のユーザー名を入力して、<Enter> キーを押します。

次のメッセージが表示されます。

```
userPasswd =
```

6. ドキュメント管理サービス管理者のパスワードを入力して、<Enter> キーを押します。

次のメッセージが表示されます。

```
インタラクティブモードで、管理コマンドを実行します。
利用可能なコマンドの種類は、マニュアルかヘルプ (help) コマンドで確認してください。
```

```
operation =
```

7. 次のコマンドを入力し、<Enter> キーを押します。

```
listBackupTargetStorages
```

次のメッセージが表示されます。

```
[outputFile] =
```

補足 操作の詳細は、『ドキュメント管理サービス管理者ガイド』を参照してください。

8. 「ドローのストレージパスに指定したフォルダー」、「ごみ箱のストレージパスに指定したフォルダー」、および「アーカイブ保存データの出力先」が記述された一覧ファイルの出力先とファイル名を入力して、<Enter> キーを押します。

```
[outputFile] = {一覧ファイルの出力先} % {ファイル名} .txt
```

指定した階層に、「ドローのストレージパスに指定したフォルダー」、「ごみ箱のストレージパスに指定したフォルダー」、「アーカイブ保存データの出力先」の一覧ファイルが保存されます。

注記 {一覧ファイルの出力先} および {ファイル名} には、英数字を使用してください。

補足 「{一覧ファイルの出力先} % {ファイル名} .txt」の例は、次のとおりです。
[E:%BackupList%strageList.txt]

9. 出力されたファイルを開いて、フォルダー階層を確認します。

補足 記述されているすべてのフォルダーがバックアップの対象になります。

「コラボスペースのインポートフォルダー」を確認する

1. Web ブラウザーを起動し、ArcSuite の URL にアクセスします。
2. [ポータル] 画面で、[システム管理] リンクをクリックします。
[システム管理] 画面が表示されます。
3. [システム管理] 画面の左側にある [システム管理] から、[コラボスペース] をクリックします。
画面の右側に、コラボスペースの情報が表示されます。
4. [このシステム] から [コラボスペース (サーバー名)] を選択します。
[管理ログイン] 画面が表示されます。
5. 管理者権限を持つユーザーの [ユーザー ID] と [パスワード] を入力します。
6. [ログイン] をクリックします。
ログインに成功すると、[コラボスペース管理] メニューが表示されます。
7. 左側のツリーから、[ファイルインポート設定] リンクをクリックします。
[ファイルインポート設定] ページが表示されます。
8. [インポートフォルダのルートディレクトリ] のパスを確認します。

「コラボスペースのタスクのアーカイブデータを出力するフォルダー」を確認する

1. Web ブラウザーを起動し、ArcSuite の URL にアクセスします。
2. [ポータル] 画面で、[システム管理] リンクをクリックします。
[システム管理] 画面が表示されます。
3. [システム管理] 画面の左側にある [システム管理] から、[コラボスペース] をクリックします。
画面の右側に、コラボスペースの情報が表示されます。
4. [このシステム] から [コラボスペース (サーバー名)] を選択します。
[管理ログイン] 画面が表示されます。
5. 管理者権限を持つユーザーの [ユーザー ID] と [パスワード] を入力します。
6. [ログイン] をクリックします。
ログインに成功すると、[コラボスペース管理] メニューが表示されます。
7. 左側のツリーから、[タスク設定] を選択します。
[タスク設定] 画面が表示されます。
8. [タスクアーカイブ出力先] のパスを確認します。

「外部コマンドの配置フォルダー」を確認する

1. Web ブラウザーを起動し、ArcSuite の URL にアクセスします。
2. [ポータル] 画面で、[システム管理] リンクをクリックします。
[システム管理] 画面が表示されます。
3. [システム管理] 画面の左側にある [システム管理] から、[ワークフロー] をクリックします。
画面の右側に、ワークフローの情報が表示されます。
4. [このシステム] から [ワークフロー ({サーバー名})] を選択します。
[管理ログイン] 画面が表示されます。
5. 管理者権限を持つユーザーの [ユーザー ID] と [パスワード] を入力します。
6. [ログイン] をクリックします。
ログインに成功すると、[ワークフロー管理] メニューが表示されます。
7. 左側のツリーから、[外部コマンド一覧] リンクをクリックします。
[外部コマンド一覧] ページが表示されます。
8. [外部コマンドの配置フォルダ] に表示されているフォルダーを確認します。
9. 外部コマンドの設定ファイルと実行ファイルとが異なるフォルダーに格納されていないかを、次の手順で確認します。
 - (1) 手順 8 で確認したフォルダーを、Windows のエクスプローラーで開きます。
 - (2) 設定ファイル「command.xml」を、テキストエディターなどで開きます。
 - (3) exe や bat など、外部コマンドで実行するファイルが格納されているフォルダーが、手順 8 で確認したフォルダーと異なるかどうかを確認します。
異なる場合は、外部コマンドで実行するファイルが格納されているフォルダーも、定期的にバックアップします。

1.9 Microsoft Volume Shadow Copy Service の起動

オンラインバックアップでは、「Microsoft Volume Shadow Copy Service」を使用して、スナップショットを作成します。

オンラインバックアップの運用を開始する前に、「Microsoft Volume Shadow Copy Service」を起動します。起動する手順は、次のとおりです。

- 1.** ArcSuite がインストールされているサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
- 2.** Windows の [スタート] メニューから、[Windows 管理ツール] > [サービス] を選択します。
[サービス] 画面が表示されます。
- 3.** [Volume Shadow Copy] を選択します。
- 4.** 右クリックメニューから、[プロパティ] を選択します。
[(ローカルコンピュータ) Volume Shadow Copy のプロパティ] 画面が表示されます。
- 5.** [スタートアップの種類] で、[自動] を選択します。
- 6.** [サービスの状態] で、[開始] をクリックします。
- 7.** [OK] をクリックします。



2 バックアップの操作

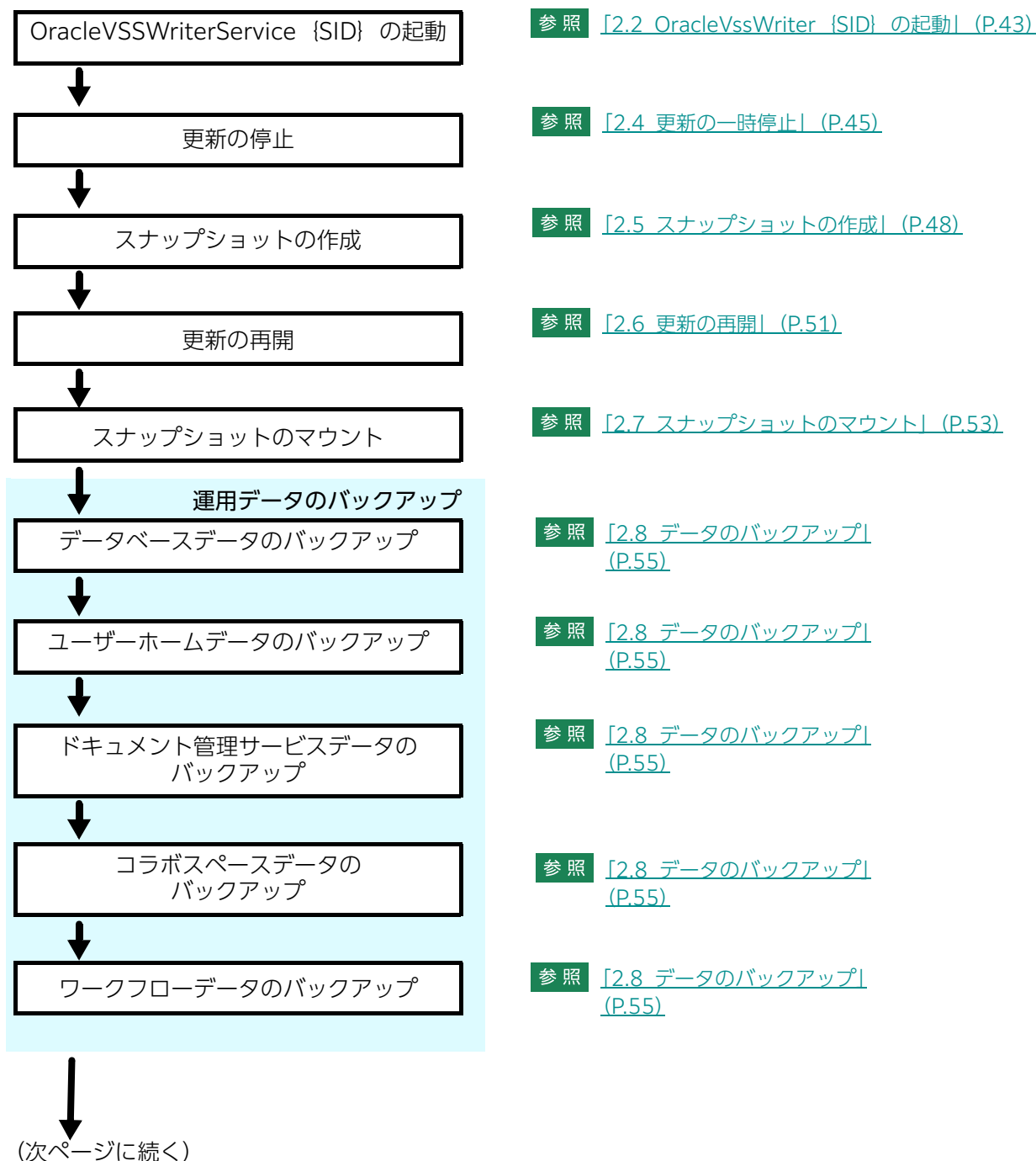
この章では、オンラインバックアップの操作について説明します。

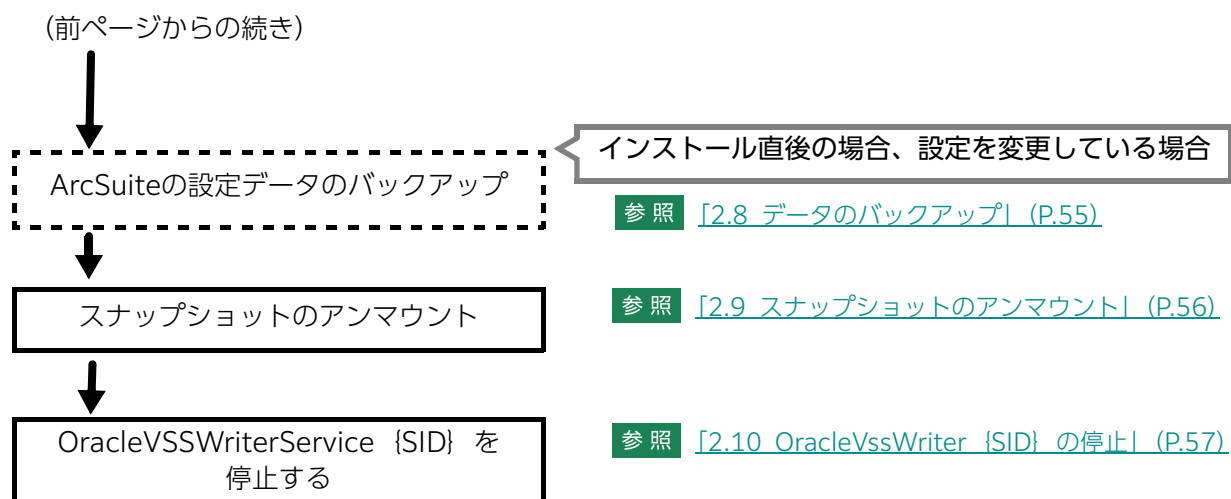
2.1 オンラインバックアップ作業の流れ

オンラインバックアップでは、ArcSuiteの更新を一時的に停止し、データのスナップショット（シャドウコピー）を作成します。

そのあと、スナップショットからバックアップのデータをとります。

補足 ArcSuite がインストールされているサーバーに、「ORA_DBA」グループのユーザーでサインインしてから、「OracleVSSWriterService {SID} の起動」から「スナップショットのアンマウント」までの、一連のコマンドを実行します。
通常、「ORA_DBA」グループのユーザーは「Administrator」です。データベースをインストールしたときのユーザーを別のユーザーに指定していた場合は、そのユーザーが「ORA_DBA」グループのユーザーとして表示されます。





2.2 OracleVssWriter {SID} の起動

「OracleVssWriter {SID}」のサービスを起動します。

参照 {SID} については、[\[1.5.1 ArcSuite に関連するサービスを確認する\] \(P.28\)](#) で説明しています。参照してください。

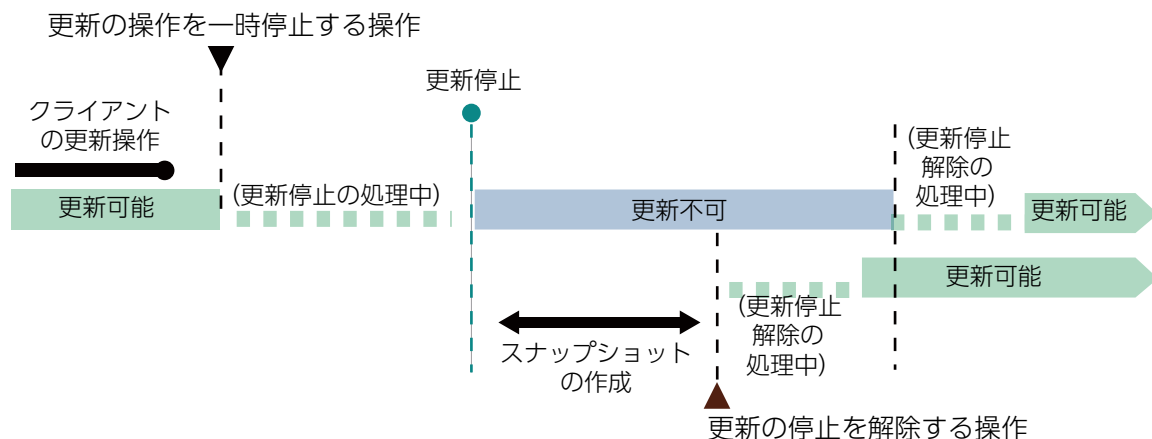
2.2.1 OracleVssWriter {SID} を起動する

1. ArcSuite がインストールされているサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. Windows の [スタート] メニューから、[Windows 管理ツール] > [サービス] を選択します。
[サービス] 画面が表示されます。
3. [OracleVssWriter {SID}] サービスを選択して、[サービスの開始] をクリックします。

補足 手動の状態で起動します。

2.3 更新の一時停止と再開

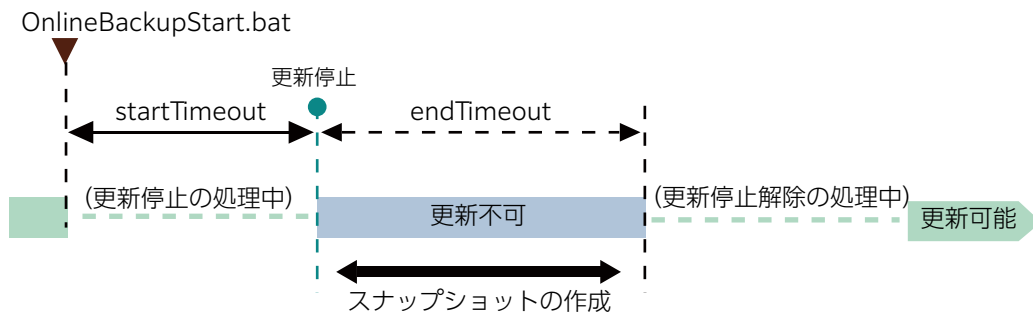
オンラインバックアップでは、バックアップしたデータの整合性を保つため、ArcSuiteの更新の操作を一時的に停止する操作をし、更新ができない状態になったところでスナップショットを作成します。スナップショットの作成が終了したら、更新の停止を解除する操作を実施して、ArcSuiteを更新できるようにします。



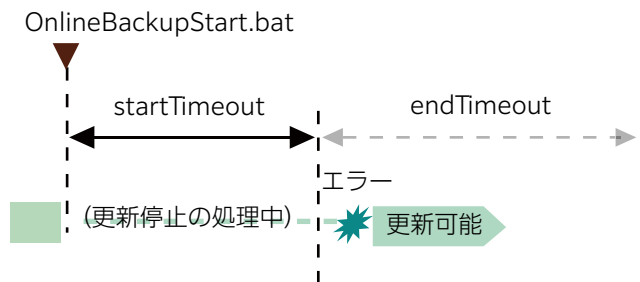
- 注記**
- ・更新を一時的に停止している状態のとき、各コンポーネントからデータを更新する操作はできません。
 - ・ドキュメント管理サービス以外のコンポーネントから更新に関する操作を実行すると、更新の処理は待ち状態となるため、操作画面が遷移しないことがあります。
 - ・ユーザーがログインするときにログイン画面で「ログイン」をクリックしても、画面が遷移しないことがあります。
 - ・ドキュメント管理サービスについて、次の制限があります。
 - 更新に関する操作を実行した場合はエラーが発生します。
 - スケジューラーが設定されている場合は、一旦停止されます。
 - タイマー処理は、タイマーの開始時刻になっても更新が一時的に停止していたら、解除されるのを待ってタイマーに設定された処理を実施します。
 - オブジェクトを登録する処理、および変更する処理はエラーになります。キャプチャリングサービスなどを利用してオブジェクトを登録する処理もエラーになります。データを参照する処理だけが動作します。
 - オブジェクトを変更する設定のイベントトリガーが実行された場合は、エラーになります。オブジェクトを参照する設定のイベントトリガーだけが動作します。

2.4 更新の一時停止

コマンドを実行して、ArcSuiteの更新の操作ができない状態にします。更新を停止するには、「OnlineBackupStart.bat」コマンドを使用します。コマンドを実行するとき、「更新の一時停止処理が完了するまでの時間」(startTimeout)および「更新の一時停止状態を継続する時間」(endTimeout)を指定します。コマンドを入力すると、更新の操作を一時的に停止する処理が開始されます。「更新の一時停止処理が完了するまでの時間」(startTimeout)を過ぎると、更新の操作ができない状態になります。更新の操作ができない状態になったら、スナップショットを作成します。「更新の一時停止状態を継続する時間」(endTimeout)を過ぎると、更新の操作ができない状態を解除する処理が開始されます。



注記 「更新の一時停止処理が完了するまでの時間」(startTimeout)を経過しても、ArcSuiteの更新の操作を停止できなかった場合はエラーとなり、更新の操作ができる状態（コマンドを実行する前の状態）に戻ります。



この場合、スナップショットを作成せず、数秒の間隔をおいたあとで再びコマンドを実行してください。さらにエラーになる場合は、ログファイルに記録されているエラーを確認して対処してください。

2.4.1 更新を一時停止する

- 1. ArcSuite がインストールされているサーバーに、Administrator 権限を持つ、「ORA_DBA」グループのユーザーでサインインします。
- 2. Windows の [スタート] メニューから、[Windows システムツール] > [コマンドプロンプト] を右クリックし、[その他] > [管理者として実行] を選択します。
[管理者：コマンド プロンプト] 画面が表示されます。
- 3. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
cd /d {ArcSuite のプログラムホーム} %Service%Components%OnlineBackup%bin
```

補 足 {ArcSuite のプログラムホーム} のデフォルトは、「C:\Program Files\FUJIFILM%\ArcSuite」です。

- 4. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
OnlineBackupStart.bat -startTimeout {更新の一時停止処理が完了するまでの時間} -  
endTimeout {更新の一時停止状態を継続する時間} -force {コマンドを強制的に実行するか}
```

コマンドのパラメーターに入力する項目は、次のとおりです。

項目	入力内容
{更新の一時停止処理を完了するまでの時間}	コマンドを実行してからArcSuiteの更新の操作ができない状態にするまでの時間を、秒の単位で指定します。指定できる値の範囲は1～1,200（約20分）です。 省略した場合は、コマンドを実行してから120秒後に更新を一時停止します。 補 足 120～300の値を指定することを推奨します。
{更新の一時停止状態を継続する時間}	ArcSuiteの更新の操作ができない状態を継続させる時間を、秒の単位で指定します。指定できる値の範囲は1～1,200（約20分）です。 省略した場合は、コマンドを実行してから30秒間、更新を一時停止します。
{コマンドを強制的に実行するか}	コマンドを強制的に実行するかどうかを指定します。強制的に実行する場合は「true」を指定します。強制的に実行しない場合は、入力を省略します。 注 記 「true」を指定する場合は、オンラインバックアップが実行中でないことを必ず確認してください。このパラメーターを指定すると、次の状態であっても、更新一時停止のコマンドが強制的に実行されます。 ・更新一時停止状態に移行中 ・更新一時停止状態 ・更新一時停止状態の解除中 補 足 このパラメーターは、オンラインバックアップのコマンドを実行中にサーバーが異常停止したなどの理由で、内部的にオンラインバックアップが実行中の状態のままになった場合に指定します。

2.4.2 実行結果を確認する

ArcSuiteの更新の操作を停止できたかどうかはコマンドの返り値でも確認できます。処理が成功していたら、[「2.5.1 すべてのドライブのスナップショットを作成する」 \(P.48\)](#) または [「2.5.2 指定したドライブを除いてスナップショットを作成する」 \(P.49\)](#) に進み、スナップショットを作成します。

補足 返り値は、「echo %ERRORLEVEL%」などのコマンドで確認できます。

返り値が「0」の場合

処理が成功しました。更新を停止する処理が開始され、コマンドを実行したサーバーにあるすべてのドライブが次のファイルに記述されます。

「{ArcSuiteのユーザーホーム} ¥Service¥conf¥OnlineBackup¥target_drive.lst」

通常は、[\[2.5.2 指定したドライブを除いてスナップショットを作成する\] \(P.49\)](#)に進みます。すべてのドライブのスナップショットを作成する場合は、[\[2.5.1 すべてのドライブのスナップショットを作成する\] \(P.48\)](#)に進みます。

補足 {ArcSuite のユーザーホーム} のデフォルトは、
「{システムドライブ以外で最大容量のドライブ} :¥ArcSuite」です。

返り値が「1」の場合

処理がエラーで終了しました。次のような場合にエラーになります。

- ・「startTimeout」で指定した時間内に更新を停止する処理が終了しなかった
- ・データベースに接続できなかった
- ・ドキュメント管理サービスの更新を停止できなかった
- ・「startTimeout」、または「endTimeout」で指定した値が範囲外の値だった
- ・すでに「更新停止の処理中」、「更新不可」、または「更新停止解除の処理中」の状態にある

エラーの詳細はログに出力されます。エラーログは、次のフォルダーに保存されます。

「{ArcSuiteのユーザーホーム} ¥Service¥logs¥OnlineBackup」

補足 {ArcSuite のユーザーホーム} のデフォルトは、
「{システムドライブ以外で最大容量のドライブ} :¥ArcSuite」です。

■ エラーの対処

- ・「startTimeout」で指定した時間内に更新を一時停止する処理が終了しなかった場合は、指定する時間を長くして、再度、更新の一時停止を実行してください。
- ・ドキュメント管理サービスの更新を停止できなかった場合は、しばらく時間をおいてから、再度、更新の一時停止を実行してください。
- ・エラーメッセージを確認して対処したあと、再び、更新の一時停止を実行してください。

補足 更新を一時停止する処理が頻繁にエラーになる場合は、クライアントコンピューターからの更新処理があまり多くない時間帯を選んで実行してください。

2.4.3 「更新の一時停止処理を完了するまでの時間」のめやす

最初に更新を一時的に停止するときは、{更新の一時停止処理を完了するまでの時間} に値を指定せず、デフォルトの状態で行ってください。

デフォルトの時間では短かった場合は、以降、運用に合わせて時間を調整します。

2.4.4 「更新の一時停止状態を継続する時間」のめやす

最初に更新を一時的に停止するときは、{更新の一時停止状態を継続する時間} に値を指定せず、デフォルトの状態で行います。

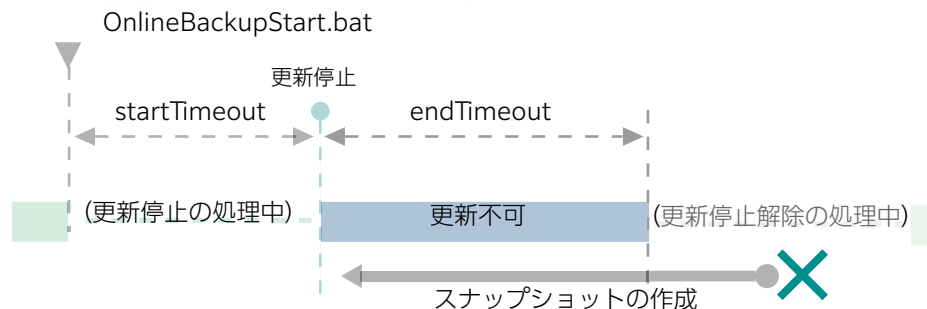
以降、スナップショットの作成に実際にかかった時間を計り、計測した時間の2～4倍の値を指定して調整します。

2.5 スナップショットの作成

ArcSuiteの更新の操作ができない状態になっていることを確認したあと、ArcSuite データのスナップショットを作成します。

作成済みのスナップショットがある場合は、そのスナップショットが削除され、新たなスナップショットが作成されます。スナップショットを作成する方法には、すべてのドライブのスナップショットを作成する方法と、指定したドライブを除いてスナップショットを作成する方法があります。

注記 スナップショットの作成に時間がかかり、「OnlineBackupStart.bat」の「endTimeout」で指定した時間を過ぎて作成されたスナップショットは、有効なバックアップデータではありません。



次回バックアップを実行するときは、「OnlineBackupStart.bat」の「endTimeout」で指定する時間を長くして、スナップショットを作成してください。

2.5.1 すべてのドライブのスナップショットを作成する

次の手順を実行すると、「target_drive.lst」ファイルに記述されているすべてのドライブのスナップショットを作成できます。

補足 「target_drive.lst」ファイルは、「OnlineBackupStart.bat」を実行したときに作成されるファイルです。

1. ArcSuite がインストールされているサーバーに、Administrator 権限を持つ、「ORA_DBA」グループのユーザーでサインインします。
2. Windows の [スタート] メニューから、[Windows システムツール] > [コマンドプロンプト] を右クリックし、[その他] > [管理者として実行] を選択します。
[管理者：コマンド プロンプト] 画面が表示されます。
3. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
cd /d {ArcSuite のプログラムホーム} %Service%Components%OnlineBackup%bin
```

補足 {ArcSuite のプログラムホーム} のデフォルトは、「[C:%Program Files%FUJIFILM%ArcSuite]」です。

4. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
OnlineBackupCreateSnapshot.bat
```

注記 「スナップショットの作成に失敗しました。」および「スナップショットの削除処理でエラーが発生しました。」のエラーが発生し次のファイルが存在していた場合、ファイルをいったん別のフォルダーなどに退避したあと、再び、コマンドを実行して処理が成功していることを確認してください。
「{ArcSuite のユーザーホーム} %Service%data%OnlineBackup%work_snapshot.lst」
処理が成功したあとで、退避したファイルを削除してください。

実行結果を確認する

スナップショットが作成されているかどうかを、返り値で確認します。処理が成功していたら、更新の停止を解除する手順の [「2.6 更新の再開」\(P.51\)](#) に進みます。

補足 戻り値は、「echo %ERRORLEVEL%」などのコマンドで確認できます。

■ 戻り値が「0」の場合

処理が成功しました。作成されたスナップショットのIDとドライブ名が次のファイルに記述されます。

「{ArcSuiteのユーザーホーム} ¥Service¥data¥OnlineBackup¥work_snapshot.lst」

更新の一時停止を解除する手順、[\[2.6 更新の再開\] \(P.51\)](#)に進みます。

補足 {ArcSuite のユーザーホーム} のデフォルトは、
「{システムドライブ以外で最大容量のドライブ} :¥ArcSuite」です。

■ 戻り値が「1」の場合

処理がエラーで終了しました。次のような場合にエラーになります。

- ・ OracleVssWriter {SID} のリクエスト発行に失敗した
- ・ 結果ファイル (work_snapshot.lst) の作成に失敗した
- ・ すでにあったスナップショットの削除に失敗した
- ・ スナップショットの作成に失敗した
- ・ Windows API が動作していない
- ・ 「endTimeout」で指定した時間内にスナップショットの作成処理が完了しなかった

エラーの詳細はログに出力されます。エラーログは、次のフォルダーに保存されます。

「{ArcSuiteのユーザーホーム} ¥Service¥logs¥OnlineBackup」

補足 {ArcSuite のユーザーホーム} のデフォルトは、
「{システムドライブ以外で最大容量のドライブ} :¥ArcSuite」です。

◆ エラーの対処

- ・ しばらく時間をおいてから、再度、スナップショットの作成を実行してください。
- ・ エラーメッセージを確認して対処したあと、再び、スナップショットの作成を実行してください。

2.5.2 指定したドライブを除いてスナップショットを作成する

「target_drive.lst」に記述されたドライブの中で、スナップショットを作成しないドライブを指定できます。ドライブの中に外部ディスクがあり、そのディスクにスナップショットを作成する機能がある場合など、別途、スナップショットを作成するときに利用できます。

1. ArcSuite がインストールされているサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. 「{ArcSuite のユーザーホーム} ¥Service¥conf¥OnlineBackup¥target_drive.lst」ファイルを、Notepad などを開きます。
補足 {ArcSuite のユーザーホーム} のデフォルトは、「{システムドライブ以外で最大容量のドライブ} :¥ArcSuite」です。
3. オンラインバックアップの対象となるドライブを確認します。
4. 「{ArcSuite のユーザーホーム} ¥Service¥conf¥OnlineBackup」フォルダーで、右クリックメニューから「新規作成」>「テキストドキュメント」を選択します。
「新規テキスト ドキュメント.txt」ファイルが作成されます。
5. 「新規テキスト ドキュメント.txt」ファイルの名前を、「exclude_drive.lst」に変更します。
6. Notepad などファイルを開きます。

7. スナップショットを作成しないドライブを記述します。1 行に 1 ドライブを記述します。

```
G  
F
```

補足 上の例では G ドライブ、F ドライブをスナップショットを作成しないドライブとして指定しています。

8. ファイルを保存します。

9. Windows の [スタート] メニューから、[Windows システムツール] > [コマンドプロンプト] を右クリックし、[その他] > [管理者として実行] を選択します。
[管理者：コマンド プロンプト] 画面が表示されます。

10. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
cd /d {ArcSuite のプログラムホーム} %Service%Components%OnlineBackup%bin
```

補足 {ArcSuite のプログラムホーム} のデフォルトは、[C:%Program Files%FUJIFILM%ArcSuite] です。

11. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
OnlineBackupCreateSnapshot.bat
```

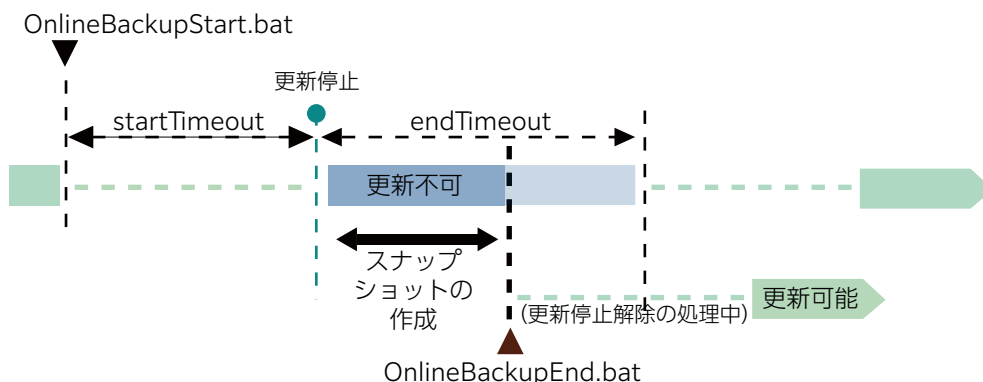
実行結果を確認する

スナップショットが作成されているかどうかを、返り値で確認します。処理が成功していたら、更新の停止を解除する手順、[\[2.6 更新の再開\] \(P.51\)](#) に進みます。

参照 実行結果を確認する手順は、[\[2.5.1 すべてのドライブのスナップショットを作成する\] \(P.48\)](#) を参照してください。

2.6 更新の再開

コマンドを入力して更新の操作ができない状態を解除し、ArcSuiteの更新の操作ができるようにします。スナップショットの作成が終了したことを確認してから、ここで説明するコマンドを実行してください。コマンドを実行すると、更新の操作を一時的に停止する処理が解除され、ArcSuiteの更新の操作ができるようになります。



- 注記**
- ・スナップショットの作成が成功したら、速やかに更新の停止を解除してください。
 - ・「OnlineBackupStart.bat」の「endTimeout」で指定した時間よりも前に、「OnlineBackupEnd.bat」コマンドを実行してください。「OnlineBackupStart.bat」の「endTimeout」時間を過ぎてからこのコマンドを実行すると、作成されたスナップショットはバックアップデータとして利用できません。リストアすると、ArcSuite が正常に動作しなくなることがあります。

2.6.1 更新の一時停止を解除する

1. ArcSuite がインストールされているサーバーに、Administrator 権限を持つ、「ORA_DBA」グループのユーザーでサインインします。
2. Windows の [スタート] メニューから、[Windows システムツール] > [コマンドプロンプト] を右クリックし、[その他] > [管理者として実行] を選択します。
[管理者：コマンド プロンプト] 画面が表示されます。
3. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
cd /d {ArcSuite のプログラムホーム} %Service%Components%OnlineBackup%bin
```

補足 {ArcSuite のプログラムホーム} のデフォルトは、「C:\Program Files\FUJIFILM\ArcSuite」です。

4. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
OnlineBackupEnd.bat
```

2.6.2 実行結果を確認する

更新の一時停止を解除する処理が成功しているかどうかを、戻り値で確認します。処理が成功していたら、スナップショットをマウントする手順、[\[2.7 スナップショットのマウント\] \(P.53\)](#)に進みます。

補足 戻り値の確認は、「echo %ERRORLEVEL%」などのコマンドで確認できます。

■ 戻り値が「0」の場合

処理が成功しています。ArcSuiteのデータを更新できます。

■ 返り値が「1」の場合

処理がエラーで終了しました。次のような場合にエラーになります。

- ・更新の一時停止がタイムアウトしているため、すでに更新の一時停止が解除されている
- ・データベースの操作に失敗した
- ・ドキュメント管理サービスがエラーの状態にある

エラーの詳細はログに出力されます。エラーログは、次のフォルダーに保存されます。

「{ArcSuiteのユーザーホーム} ¥Service¥logs¥OnlineBackup」

補 足 {ArcSuite のユーザーホーム} のデフォルトは、
「{システムドライブ以外で最大容量のドライブ} :¥ArcSuite」です。

◆ エラーの対処

- ・すでに更新の一時停止が解除されていた場合は、再び、更新の一時停止を実行し、スナップショットを作成してください。
- ・エラーメッセージを確認して対処したあと、再び、更新の一時停止を実行し、スナップショットの作成を実行してください。

2.7 スナップショットのマウント

作成したスナップショットを、Windowsのファイルとして利用できる状態にします。

そのあと、Windowsで利用可能な状態のデータから該当するデータを取り出し、バックアップデータを作成します。

2.7.1 スナップショットをマウントする

1. ArcSuite がインストールされているサーバーに、Administrator 権限を持つ、「ORA_DBA」グループのユーザーでサインインします。
2. 「{ArcSuite のユーザーホーム} ¥Service¥conf¥OnlineBackup¥」フォルダーを選択します。
補足 {ArcSuite のユーザーホーム} のデフォルトは、「{システムドライブ以外で最大容量のドライブ}:¥ArcSuite」です。
3. 右クリックメニューから【新規作成】 > 【テキストドキュメント】を選択します。
「新規テキスト ドキュメント .txt」ファイルが作成されます。
4. 「新規テキスト ドキュメント .txt」ファイルの名前を「target_mount.properties」に変更します。
5. Notepad などファイルを開きます。
6. 「target_mount.properties」ファイルの次の位置に、イメージをマウントするフォルダー名を入力します。

```
com.fujifilm.fb.arcsuite.onlinebackup.mount.position= {イメージをマウントするフォルダー}
```

- 補足** ・「D」ドライブの「SSMount」フォルダーにスナップショットをマウントする場合は、次のように記述します。

```
com.fujifilm.fb.arcsuite.onlinebackup.mount.position=D:¥SSMount
```

- ・「\$ {DATE}」を追加して指定すると、実行時の日付が指定したフォルダーの名前に追加されます。
次のように記述します。

```
com.fujifilm.fb.arcsuite.onlinebackup.mount.position=D:¥SSMount${DATE}
```

このコマンドを「2021 年 3 月 1 日」に実行すると、「D:¥SSMount20210301」という名前のフォルダーにスナップショットがマウントされます。

7. Windows の【スタート】メニューから、【Windows システムツール】 > 【コマンドプロンプト】を右クリックし、【その他】 > 【管理者として実行】を選択します。
【管理者：コマンド プロンプト】画面が表示されます。
8. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
cd /d {ArcSuite のプログラムホーム} ¥Service¥Components¥OnlineBackup¥bin
```

- 補足** {ArcSuite のプログラムホーム} のデフォルトは、「C:¥Program Files¥FUJIFILM¥ArcSuite」です。

9. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
OnlineBackupMountSnapShot.bat
```

2.7.2 実行結果を確認する

スナップショットのマウントが成功しているかどうかを、返り値で確認します。処理が成功していたら、必要なデータをバックアップします。

補足 返り値は、「echo %ERRORLEVEL%」などのコマンドで確認できます。

返り値が「0」の場合

処理が成功しています。指定されたフォルダーにスナップショットがマウントされます。

返り値が「1」の場合

処理がエラーで終了しました。次ような場合にエラーになります。

- ・ 指定したスナップショットが存在しない
- ・ 指定したフォルダーに、すでにマウントしたフォルダーがある

エラーの詳細はログに出力されます。エラーログは、次のフォルダーに保存されます。

「{ArcSuiteのユーザーホーム} ¥Service¥logs¥OnlineBackup」

補足 {ArcSuite のユーザーホーム} のデフォルトは、
「{システムドライブ以外で最大容量のドライブ} :¥ArcSuite」です。

■ エラーの対処

エラーメッセージを確認して対処したあと、再び、スナップショットの作成を実行してください。

2.8 データのバックアップ

ArcSuiteをインストールしたとき、再インストールやバージョンアップで設定を変更したとき、または定期的にバックアップをするときに必要なデータは、次のとおりです。

参照 レジストリーをバックアップする方法は、[「付録 A.1 レジストリーをバックアップする」 \(P.97\)](#) を参照してください。

ArcSuite をインストールしたとき

次のデータをバックアップします。

- ・ レジストリーの設定データ
- ・ データベースの設定データ
- ・ ArcSuite の設定データ
- ・ データベースの運用データ
- ・ ユーザーホームのデータ
- ・ ドキュメント管理サービスのデータ

参照 インストールしたときにバックアップが必要なデータの格納場所は、[「1.8.1 インストール時および設定変更時にバックアップするデータ」 \(P.32\)](#) を参照してください。

ArcSuite の設定を変更したとき

次のデータをバックアップします。

- ・ レジストリーの設定データ
- ・ データベースの設定データ
- ・ ArcSuite の設定データ

参照 設定を変更したときにバックアップが必要なデータの格納場所は、[「1.8.1 インストール時および設定変更時にバックアップするデータ」 \(P.32\)](#) を参照してください。

定期的にバックアップを実行するとき

次のデータをバックアップします。

- ・ データベースの運用データ
- ・ ユーザーホームのデータ
- ・ ドキュメント管理サービスのデータ
- ・ コラボスペースのデータ
- ・ ワークフローのデータ

参照 定期的にバックアップをするときに必要なデータの格納場所は、[「1.8.2 定期的にバックアップするデータ」 \(P.33\)](#) を参照してください。

2.9 スナップショットのアンマウント

マウントしたスナップショットをアンマウントして、作成したデータを削除します。

2.9.1 スナップショットをアンマウントする

1. ArcSuite がインストールされているサーバーに、Administrator 権限を持つ、「ORA_DBA」グループのユーザーでサインインします。
2. Windows の [スタート] メニューから、[Windows システムツール] > [コマンドプロンプト] を右クリックし、[その他] > [管理者として実行] を選択します。
[管理者：コマンド プロンプト] 画面が表示されます。
3. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
cd /d {ArcSuite のプログラムホーム} %Service%Components%OnlineBackup%bin
```

補足 {ArcSuite のプログラムホーム} のデフォルトは、「C:%Program Files%FUJIFILM%ArcSuite」です。

4. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
OnlineBackupDeleteSnapShot.bat
```

2.9.2 実行結果を確認する

スナップショットのアンマウントが成功しているかどうかを、返り値で確認します。

補足 返り値は、「echo %ERRORLEVEL%」などのコマンドで確認できます。

返り値が「0」の場合

処理が成功しています。スナップショットがアンマウントされ、スナップショットが削除されました。また、「{ArcSuiteのユーザーホーム} %Service%data%OnlineBackup%work_snapshot.lst」ファイルも削除されます。

補足 {ArcSuite のユーザーホーム} のデフォルトは、
「{システムドライブ以外で最大容量のドライブ} :%ArcSuite」です。

返り値が「1」の場合

処理がエラーで終了しました。次のような場合にエラーになります。

- ・スナップショットの削除に失敗した
- ・「work_snapshot.lst」ファイルの削除に失敗した

エラーの詳細はログが出力されます。エラーログは、次のフォルダーに保存されます。

「{ArcSuiteのユーザーホーム} %Service%logs%OnlineBackup」

補足 {ArcSuite のユーザーホーム} のデフォルトは、
「{システムドライブ以外で最大容量のドライブ} :%ArcSuite」です。

2.10 OracleVssWriter {SID} の停止

オンラインバックアップを実行したあとは、「OracleVssWriter {SID}」のサービスを停止します。

補足 運用中は、「OracleVssWriter {SID}」のサービスを停止しておくことをおすすめします。

2.10.1 OracleVssWriter {SID} を停止する

1. ArcSuite がインストールされているサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. Windows の [スタート] メニューから、[Windows 管理ツール] > [サービス] を選択します。
[サービス] 画面が表示されます。
3. [OracleVssWriter {SID}] サービスを選択して、[サービスの停止] をクリックします。

第3部 リストア

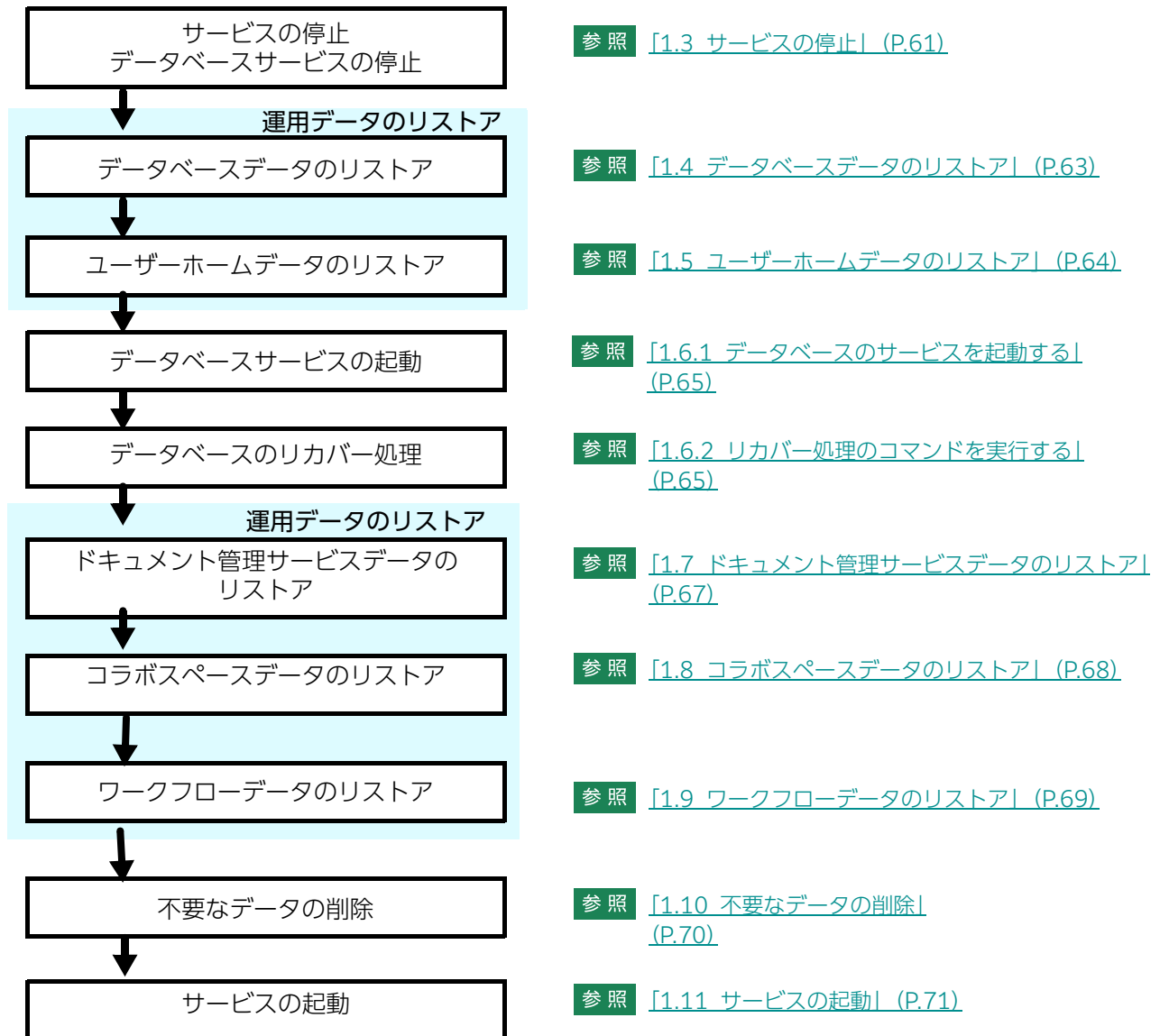
1 既存のサーバーにデータをリストアする方法

この章では、既存のサーバーにデータをリストアする方法について説明します。

1.1 既存のサーバーにデータをリストアする操作の流れ

ArcSuiteの既存のサーバーにデータをリストアするには、ArcSuiteのすべてのサービスを停止します。そのあとで、既存のデータを別の場所に移動し、バックアップのデータをリストアします。

- 補足**
- ・ここでは、既存の ArcSuite サーバーにデータをリストアする手順を説明します。
 - ・ ArcSuite がインストールされているサーバーに、「ORA_DBA」グループのユーザーでサインインしてから、「サービスの停止」から「サービスの起動」までの、一連のコマンドを実行します。通常、「ORA_DBA」グループのユーザーは「Administrator」です。データベースをインストールしたときのユーザーを別のユーザーに指定していた場合は、そのユーザーが「ORA_DBA」グループのユーザーとして表示されます。



1.2 キャプチャリングサービスがインストールされているサーバーでの操作の流れ

キャプチャリングサービスがインストールされているサーバーでは、ArcSuiteサービスを停止するときに、キャプチャリングサービスのサービスを停止します。また、ArcSuiteサービスを開始するときに、キャプチャリングサービスのサービスを開始します。

1.3 サービスの停止

インストールされているArcSuiteのすべてのサービスを停止します。

1.3.1 サービスを停止する

ArcSuiteのサービスを停止するには、はじめにキャプチャリングサービスがインストールされているサーバーでサービスを停止します。そのあと、ArcSuiteサーバーのサービスを停止します。

注記 各サービスは決められた順序で停止する必要があります。

補足 使用している環境によって、表示されないサービスがあります。その場合は、次に記載されているサービスを停止します。

1. ArcSuite キャプチャリングサービスがインストールされているサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. Windows の [スタート] メニューから、[Windows 管理ツール] > [サービス] を選択します。
[サービス] 画面が表示されます。
3. サービスを選択して、[サービスの停止] をクリックします。次の順序で停止します。
 - (1) ArcSuite Capturing Service Admin
 - (2) ArcSuite Capturing Service
4. ArcSuite がインストールされているサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
5. Windows の [スタート] メニューから、[Windows 管理ツール] > [サービス] を選択します。
[サービス] 画面が表示されます。
6. サービスを選択して、[サービスの停止] をクリックします。
 - (1) World Wide Web Publishing Service
 - (2) ArcSuite Monitoring Service
 - (3) ArcSuite Web Application Service
 - (4) ArcSuite Collabo Service
 - (5) ArcSuite Repository Service
 - (6) ArcSuite Repository Master Admin Service
 - (7) ArcSuite kSearchDuo Service
 - (8) ArcSuite Full Text Search Service
 - (9) ArcSuite Basic Service
 - (10) Fx Doc Cnv Helper
 - (11) DocuWorks Print Service
 - (12) OracleService {SID}
 - (13) OracleVssWriter {SID}
 - (14) OracleOraDB19Home1TNSListener

参照 {SID} については、「第 2 部 オンラインバックアップ」の [「1.5.1 ArcSuite に関連するサービスを認する」\(P.28\)](#) で説明しています。参照してください。

1.3.2 データベースサービスが停止していることを確認する

データベースサービスが停止していることを確認します。

- 1.** ArcSuite がインストールされているサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
- 2.** Windows の [スタート] メニューから、[Windows 管理ツール] > [サービス] を選択します。
[サービス] 画面が表示されます。
- 3.** サービスが停止していることを確認します。
 - (1) [OracleService {SID}] を選択して、[状態] の欄が空欄になっていることを確認します。
 - (2) [OracleOraDB19Home1TNSListener] を選択して、[状態] の欄が空欄になっていることを確認します。

補足 {SID} については、「第 2 部 オンラインバックアップ」の [「1.5.1 ArcSuite に関連するサービスを認する」\(P.28\)](#) で説明しています。参照してください。

1.4 データベースデータのリストア

データベースの運用データをリストアします。

データをリストアする前に、データベースのサービスが停止していることを確認します。

補足 リストアが終了しても、データベースのサービスはまだ起動しません。ユーザーデータをリストアしたあとで起動します。

参照 データベースのサービスが停止しているかどうか確認する手順は、[「1.3.2 データベースサービスが停止していることを確認する」\(P.62\)](#)を参照してください。

1.4.1 リストアの対象となるデータ

次のデータをリストアします。

- ・表領域のデータファイル
- ・一時表領域のデータファイル
- ・制御ファイル
- ・REDO ファイル
- ・サーバーパラメーターファイル
- ・アーカイブログファイル
- ・「fast_recovery_area」フォルダー
- ・「diag」フォルダー

1.4.2 運用データをリストアする

1. ArcSuite がインストールされているサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. それぞれ決められた格納場所に、バックアップしたときにフォルダー、ファイルに付いていたアクセス権と同じアクセス権で、リストア（コピー）します。

注記 すべてのファイルやフォルダーを、リストア（コピー）してください。

参照 リストアに使用するバックアップデータの種類、格納場所については、「第 2 部 オンラインバックアップ」の[「1.8.2 定期的にバックアップするデータ」\(P.33\)](#)を参照してください。

1.5 ユーザーホームデータのリストア

バックアップしたデータから、ユーザーホームデータをリストアします。

1.5.1 リストアするデータ

次のデータをリストアします。

- ・ユーザーホームに指定したフォルダーの「Service」フォルダー

1.5.2 ユーザーホームデータをリストアする

1. ArcSuite がインストールされているサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. 「Service」フォルダーのバックアップを、決められた格納場所に、バックアップしたときにフォルダー、ファイルに付いていたアクセス権と同じアクセス権で、リストア（コピー）します。

参照 リストアに使用するバックアップデータの種類、格納場所については、「第 2 部 オンラインバックアップ」の [「1.8.2 定期的にバックアップするデータ」\(P.33\)](#) を参照してください。

1.6 データベースのサービスの起動

データベースのサービスを起動します。サービスを起動したあとに、データベースを正常に稼働させるリカバー処理のコマンドを実行します。

- ・データベースのサービス起動
- ・リカバー処理のコマンド実行

1.6.1 データベースのサービスを起動する

1. ArcSuite がインストールされているサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. Windows の [スタート] メニューから、[Windows 管理ツール] > [サービス] を選択します。
[サービス] 画面が表示されます。
3. データベースのサービスを次の順序で起動します。

(1) OracleOraDB19Home1TNSListener

(2) OracleService {SID}

注記 次のサービスは手動で起動しないでください。

- ・ OracleVssWriter {SID}
- ・ OracleOraDB19Home1MTSRecoveryService
- ・ OracleRemExecServiceV2
- ・ OracleJobScheduler {SID}

参照 {SID} については、「第 2 部 オンラインバックアップ」の [「1.5.1 ArcSuite に関連するサービスを確
認する」\(P.28\)](#) で説明しています。参照してください。

1.6.2 リカバー処理のコマンドを実行する

1. ArcSuite がインストールされているサーバーに、「ORA_DBA」グループのユーザーでサインインします。
2. Windows の [スタート] メニューから、[Windows システムツール] > [コマンドプロンプト] を右クリックし、[その他] > [管理者として実行] を選択します。
[管理者：コマンド プロンプト] 画面が表示されます。
3. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
cd /d {ArcSuite のユーザーホーム} %Service%data%OnlineBackup%bin
```

補足 {ArcSuite のユーザーホーム} のデフォルトは、「{システムドライブ以外で最大容量のドライブ}:%ArcSuite」です。

4. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
RecoverDatabase.bat
```

次のメッセージが表示され、処理が終了します。

```
・  
・  
・  
メディア・リカバリが完了しました。  
  
データベースが変更されました。
```

実行結果を確認する

リカバリ処理が成功しているかどうかを、返り値で確認します。

補足 返り値は、「echo %ERRORLEVEL%」などのコマンドで確認できます。

■ 返り値が「0」の場合

リカバリ処理に成功しました。データベースが正常に稼働しています。

■ 返り値が「1」の場合

処理がエラーで終了しました。次のような場合にエラーになります。

- ・ データベースに接続できない
- ・ ArcSuite のコンポーネントが正常に起動していない

1.7 ドキュメント管理サービスデータのリストア

バックアップしたデータから、ドキュメント管理サービスデータをリストアします。

1.7.1 リストアするデータ

次のデータをリストアします。

- ・ドロワーのストレージパスに指定したフォルダー
- ・ごみ箱のストレージパスに指定したフォルダー
- ・アーカイブ保存データの出力先として指定していたフォルダー

1.7.2 ドキュメント管理サービスデータをリストアする

1. ArcSuite がインストールされているサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. ドキュメント管理サービスのバックアップデータを、バックアップデータと同じ階層のフォルダーに、バックアップしたときにフォルダー、ファイルに付いていたアクセス権と同じアクセス権で、リストア（コピー）します。

参照 リストアに使用するバックアップデータの種類、格納場所については、「第 2 部 オンラインバックアップ」の [「1.8.2 定期的にバックアップするデータ」 \(P.33\)](#) を参照してください。

1.8 コラボスペースデータのリストア

バックアップしたデータから、コラボスペースデータをリストアします。

1.8.1 リストアするデータ

次のデータをリストアします。

- ・ コラボスペースのインポートフォルダー
- ・ コラボスペースのタスクのアーカイブデータを出力するフォルダー

1.8.2 コラボスペースデータをリストアする

1. ArcSuite がインストールされているサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. コラボスペースのバックアップデータを、バックアップデータと同じ階層のフォルダーに、バックアップしたときにフォルダー、ファイルに付いていたアクセス権と同じアクセス権で、リストア（コピー）します。

参照 リストアに使用するバックアップデータの種類、格納場所については、「第 2 部 オンラインバックアップ」の [「1.8.2 定期的にバックアップするデータ」 \(P.33\)](#) を参照してください。

1.9 ワークフローデータのリストア

バックアップしたデータから、ワークフローデータをリストアします。

1.9.1 リストアするデータ

次のデータをリストアします。

- ・ 外部コマンドの配置フォルダー

1.9.2 ワークフローデータをリストアする

1. ArcSuite がインストールされているサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. ワークフローのバックアップデータを、バックアップデータと同じ階層のフォルダーに、バックアップしたときにフォルダー、ファイルに付いていたアクセス権と同じアクセス権で、リストア（コピー）します。

参照 リストアに使用するバックアップデータの種類、格納場所については、「第 2 部 オンラインバックアップ」の「[1.8.2 定期的にバックアップするデータ](#)」(P.33) を参照してください。

1.10 不要なデータの削除

オンラインバックアップで作成したバックアップデータは、ArcSuiteを稼働させながら作成したバックアップデータのため、次回、サービスを起動するときには不要なログイン情報などが含まれています。これらのデータはサービスを起動する前に削除します。

1.10.1 リストアしたデータから不要なデータを削除する

1. ArcSuite がインストールされているサーバーに、Administrator 権限を持つ、「ORA_DBA」グループのユーザーでサインインします。
2. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
cd /d {ArcSuite のプログラムホーム} %Service%Components%OnlineBackup%bin
```

補 足 {ArcSuite のプログラムホーム} のデフォルトは、「C:%Program Files%FUJIFILM%ArcSuite」です。

3. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
RecoverRestoreData.bat -nimUserPasswd {RMS 用ユーザーのパスワード} -  
drepUserPasswd {ドキュメント管理サービス用ユーザーのパスワード}
```

コマンドのパラメーターに入力する項目は、次のとおりです。

項目	入力内容
{RMS 用ユーザーのパスワード}	インストール時に [データベースのRMS用ユーザー情報] 画面で指定した「データベースのRMS用ユーザー」のパスワードを入力します。
{ドキュメント管理サービス用ユーザーのパスワード}	インストール時に [データベースのドキュメント管理サービス用ユーザー作成] 画面で指定したパスワードを入力します。

注 記 [-nimUserPasswd {RMS 用ユーザーのパスワード}]、[-dRepUserPasswd {ドキュメント管理サービス用ユーザーのパスワード}] の値は、必ず指定します。

実行結果を確認する

不要なデータの削除が成功しているかどうかを、返り値で確認します。

補 足 返り値は、「echo %ERRORLEVEL%」などのコマンドで確認できます。

■ 返り値が「0」の場合

リストアの後処理に成功しました。データベースが正常に稼働しています。

■ 返り値が「1」の場合

処理がエラーで終了しました。次のような場合にエラーになります。

- ・ データベースに接続できない
- ・ ArcSuite のコンポーネントが正常に起動していない

1.11 サービスの起動

インストールされているArcSuiteのすべてのサービスを起動します。

1.11.1 サービスを起動する

ArcSuiteのすべてのサービスを起動するには、はじめにArcSuiteがインストールされているサーバーでサービスを起動します。そのあと、キャプチャリングサービスがインストールされているサーバーで、サービスを起動します。

補足 使用している環境によって、表示されないサービスがあります。その場合は、次に記載されているサービスを起動します。

- 1.** ArcSuite がインストールされているサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
- 2.** Windows の [スタート] メニューから、[Windows 管理ツール] > [サービス] を選択します。
[サービス] 画面が表示されます。
- 3.** サービスを選択して、[サービスの開始] をクリックします。次の順序で起動します。
 - (1) DocuWorks Print Service
 - (2) Fx Doc Cnv Helper
 - (3) ArcSuite Basic Service
 - (4) ArcSuite Full Text Search Service
 - (5) ArcSuite kSearchDuo Service
 - (6) ArcSuite Repository Master Admin Service
 - (7) ArcSuite Collabo Service
 - (8) ArcSuite Repository Service
 - (9) ArcSuite Web Application Service
 - (10) ArcSuite Monitoring Service
 - (11) World Wide Web Publishing Service
- 4.** ArcSuite キャプチャリングサービスがインストールされているサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
- 5.** Windows の [スタート] メニューから、[Windows 管理ツール] > [サービス] を選択します。
[サービス] 画面が表示されます。
- 6.** サービスを選択して、[サービスの開始] をクリックします。次の順序で起動します。
 - (1) ArcSuite Capturing Service
 - (2) ArcSuite Capturing Service Admin



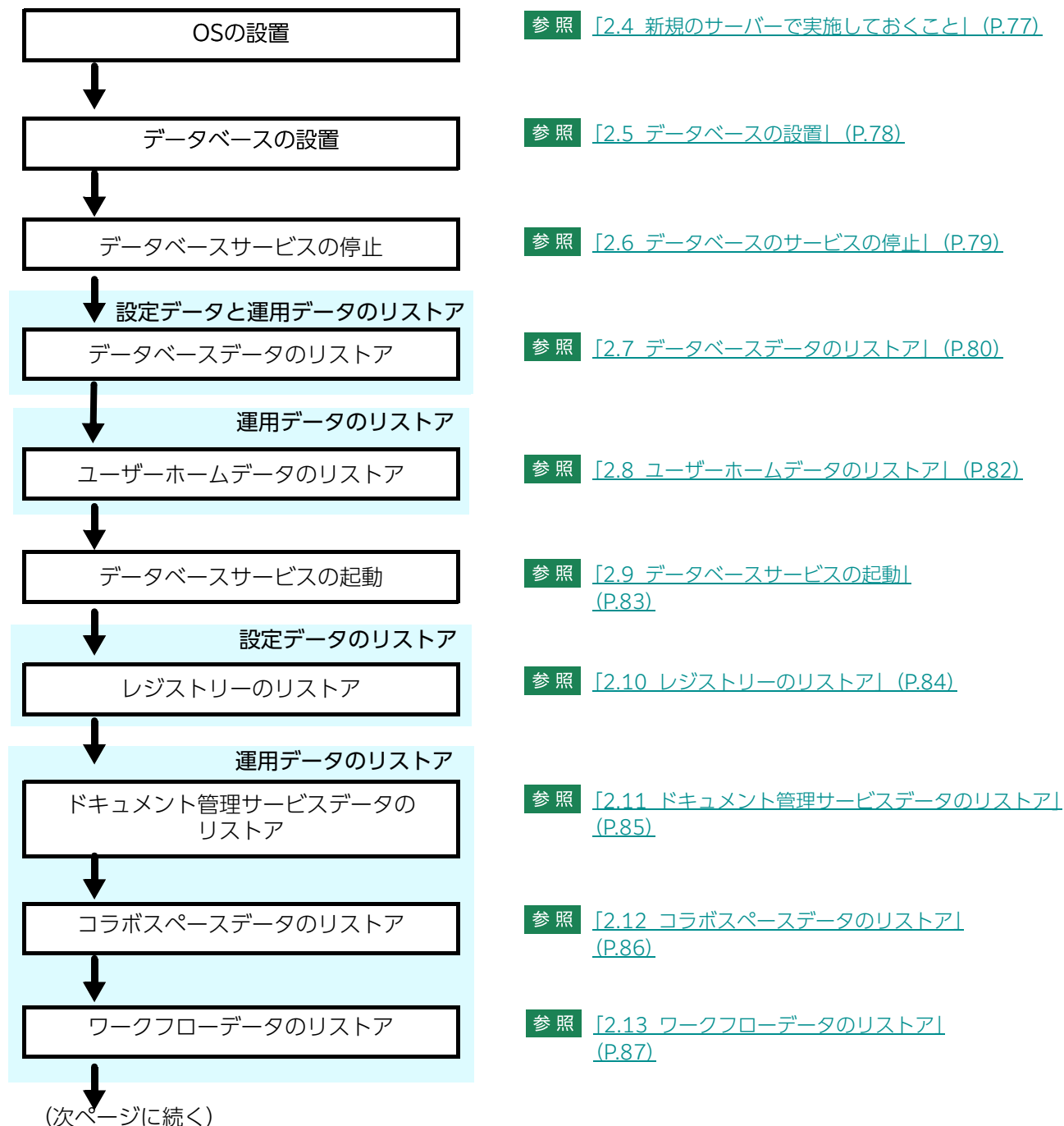
2 新規のサーバーにデータをリストアする方法

この章では、新規のサーバーにデータをリストアする方法について説明します。

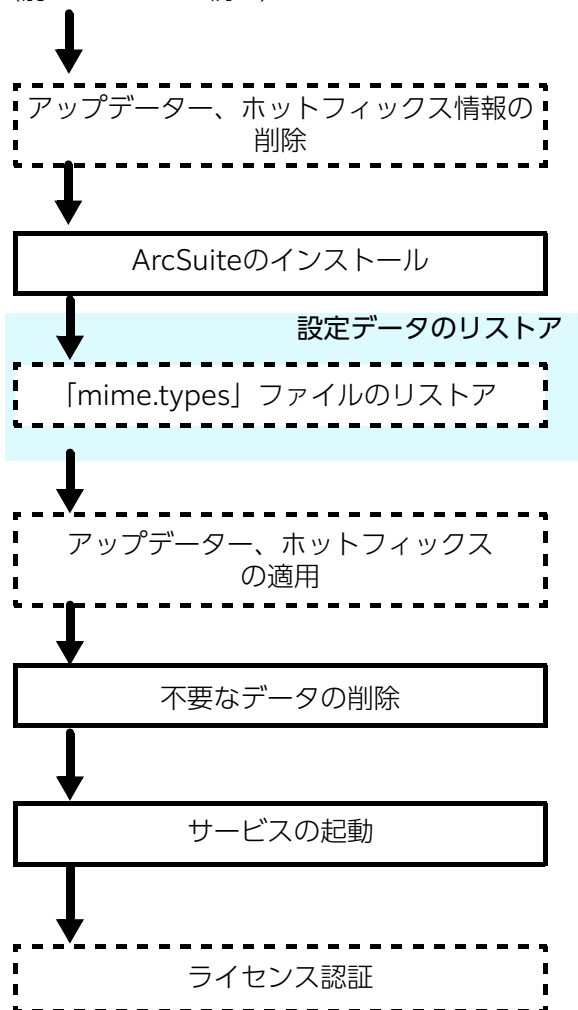
2.1 新規のサーバーにデータをリストアする操作の流れ

ArcSuiteサーバーに新規のサーバーを用意し、データをリストアするには、あらかじめOSを設置して、ArcSuiteをインストールする必要があります。そのあとで、バックアップデータのリストアと、各種の設定をします。

補足 キャプチャリングサービスをインストールするサーバーに、新規のサーバーを用意する場合は、OS を設置して、キャプチャリングサービスをインストールします。そのあと、各種の設定は不要です。



(前ページからの続き)



参 照 [「2.14 アップデーター、ホットフィックス情報の削除」 \(P.88\)](#)

参 照 [「2.15 ArcSuiteのインストール」 \(P.89\)](#)

参 照 [「2.16 「mime.types」 ファイルのリストア」 \(P.90\)](#)

参 照 [「2.17 アップデーター、ホットフィックスの適用」 \(P.91\)](#)

参 照 [「2.18 不要なデータの削除」 \(P.92\)](#)

参 照 [「2.19 サービスの起動」 \(P.93\)](#)

参 照 [「2.20 ライセンスの認証」 \(P.95\)](#)

2.2 キャプチャリングサービスがインストールされているサーバーでの操作の流れ

キャプチャリングサービスがインストールされているサーバーに障害が発生し、新規のサーバーを用意する場合は、新規のサーバーにOSを設置します。そのあと、キャプチャリングサービスをインストールします。

2.3 リストアするときに注意すること

バックアップデータをリストアするときには、次の点に注意してください。

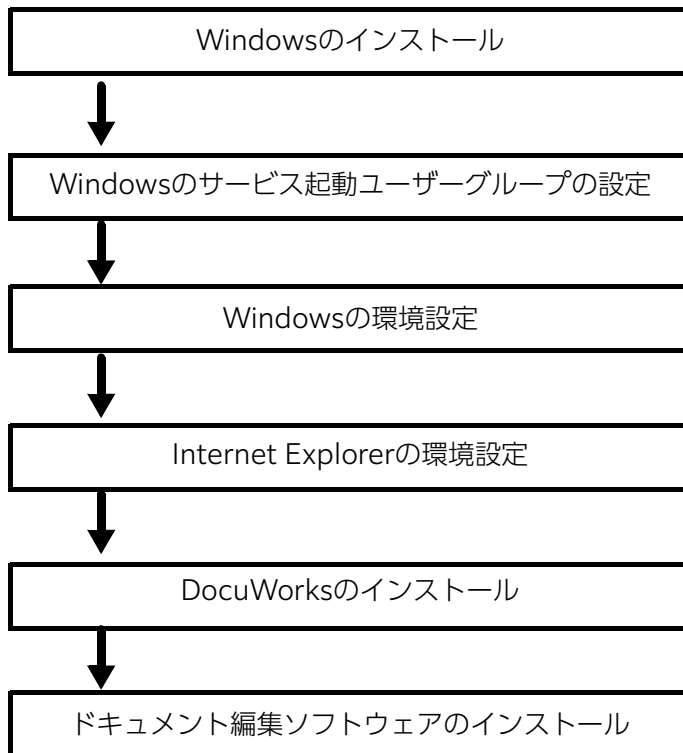
- ・バックアップしたデータのフォルダー階層とリストア先のフォルダー階層を同じにする

たとえば、「D:¥ArcSuite¥Service」のフォルダーをバックアップした場合は、リストアするときも「D:¥ArcSuite¥Service」の階層にする必要があります。リストア先の階層を、「E:¥ArcSuite¥Service」（ドライブをEに変更）にしたり、「D:¥Service」（フォルダーの階層を変更）にしたりすると、動作しません。

2.4 新規のサーバーで実施しておくこと

ArcSuiteをインストールするサーバーでは、次の作業を終了しておく必要があります。

サーバーとして使用するPCにArcSuiteがサポートしているWindows OSをインストールし、Windowsに関連する設定を実行します。OSを設定する手順の流れは、次のとおりです。



注記 Windows のサービス起動ユーザー、グループは、バックアップデータのサービス起動ユーザー、グループと、同じ内容を設定する必要があります。

補足 ドキュメント編集ソフトウェア、DocuWorks は、あとでインストールすることも可能です。

参照

- ・ ArcSuite がサポートしている OS のインストール手順については、Windows 付属の説明を参照してください。
- ・ OS をインストールしたあとに必要な設定は、『セットアップガイド』を参照してください。
- ・ DocuWorks のインストール手順については、DocuWorks のマニュアルを参照してください。
- ・ ドキュメント編集ソフトウェアの詳細なインストール手順については、それぞれ該当する製品のマニュアルを参照してください。

2.5 データベースの設置

ArcSuiteのバックアップデータをリストする前に、データベースを設置します。

補足 データベースをインストールするときに入力する項目は、データベースのリストアが完了すると、リストアしたデータの内容に上書きされます。

参照 データベースの設置手順は、『セットアップガイド』を参照してください。

2.6 データベースのサービスの停止

[\[2.5 データベースの設置\] \(P.78\)](#) で設置したデータベースのサービスを停止します。

1. ArcSuite がインストールされているサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. Windows の [スタート] メニューから、[Windows 管理ツール] > [サービス] を選択します。
[サービス] 画面が表示されます。
3. サービスを選択して、[サービスの停止] をクリックします。次の順序で停止します。

(1) OracleService {SID}

(2) OracleOraDB19Home1TNSListener

参照 {SID} については、「第 2 部 オンラインバックアップ」の [\[1.5.1 ArcSuite に関連するサービスを確
認する\] \(P.28\)](#) で説明しています。参照してください。

2.7 データベースデータのリストア

バックアップしたデータから、データベースデータをリストアします。
データをリストアする前に、データベースのサービスが停止していることを確認します。

補足 データベースデータのリストアが終了しても、データベースのサービスはまだ起動しません。すべてのデータをリストアしたあとで ArcSuite のサービスと一緒に起動します。

2.7.1 リストアの対象となるデータ

次の運用データをリストアします。

- ・表領域のデータファイル
- ・一時表領域のデータファイル
- ・制御ファイル
- ・REDO ファイル
- ・サーバーパラメーターファイル
- ・アーカイブログファイル
- ・「fast_recovery_area」フォルダー
- ・「diag」フォルダー

次の設定データをリストアします。

- ・PWD {SID} .ora
- ・listener.ora
- ・tnsnames.ora
- ・sqlnet.ora
- ・「{ホスト名 _SID}」フォルダー
- ・「sysman」フォルダー

2.7.2 データベースサービスが停止していることを確認する

サービスが停止しているかどうかを確認します。

1. ArcSuite がインストールされているサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. Windows の [スタート] メニューから、[Windows 管理ツール] > [サービス] を選択します。
[サービス] 画面が表示されます。
3. サービスが停止していることを確認します。
 - (1) [OracleService {SID}] を選択して、[状態] の欄が空欄になっていることを確認します。
 - (2) [OracleOraDB19Home1TNSListener] を選択して、[状態] の欄が空欄になっていることを確認します。

2.7.3 運用データをリストアする

データベースの運用データをリストアします。

参照 データベースの運用データのリストアについては、[「1.4.2 運用データをリストアする」\(P.63\)](#) を参照してください。

2.7.4 設定データをリストアする

データベースの設定データをリストアします。

1. ArcSuite がインストールされているサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. 設定データのバックアップをリストア（コピー）します。

参 照 リストアに使用するバックアップデータの種類、格納場所については、「第 2 部 オンラインバックアップ」の [「1.8.1 インストール時および設定変更時にバックアップするデータ」\(P.32\)](#) を参照してください。

2.8 ユーザーホームデータのリストア

ユーザーホームのバックアップデータをリストアします。

1. ArcSuite がインストールされているサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. 「Service」フォルダーのバックアップを、決められた格納場所にリストア（コピー）します。

参照 リストアに使用するバックアップデータの種類、格納場所については、「第 2 部 オンラインバックアップ」の「[1.8.2 定期的にバックアップするデータ](#)」(P.33) を参照してください。

2.9 データベースサービスの起動

データベースサービスを起動します。サービスを起動したあとに、データベースを正常に稼働させるリカバリー処理のコマンドを実行します。

参照 データベースサービスの起動、およびリカバリー処理のコマンドについては、[「1.6 データベースのサービスの起動」 \(P.65\)](#) を参照してください。

2.10 レジストリーのリストア

バックアップしたデータから、レジストリーをリストアします。

参 照 レジストリーデータのリストアについては、[「付録 A.2 レジストリーをリストアする」 \(P.97\)](#) を参照してください。

2.11 ドキュメント管理サービスデータのリストア

バックアップしたデータから、ドキュメント管理サービスデータをリストアします。

2.11.1 リストアするデータ

次のデータをリストアします。

- ・ドロワーのストレージパスに指定したフォルダー
- ・ごみ箱のストレージパスに指定したフォルダー
- ・アーカイブ保存データの出力先として指定していたフォルダー

2.11.2 ドキュメント管理サービスデータをリストアする

1. ArcSuite がインストールされているサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. ドキュメント管理サービスのバックアップデータを、バックアップデータと同じ階層のフォルダーにリストア（コピー）します。
3. Windows の [スタート] メニューから、[Windows システムツール] > [コマンドプロンプト] を右クリックし、[その他] > [管理者として実行] を選択します。
[管理者：コマンド プロンプト] 画面が表示されます。
4. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
cd /d {ドロワーのストレージパスに指定したフォルダー}
```

- 補足** ・「ドロワーのストレージパスに指定したフォルダー」が、「{ArcSuite のユーザーホーム} %Service%data%Repository」フォルダーの下階層にある場合は、手順 6 に進みます。
- ・{ArcSuite のユーザーホーム} のデフォルトは、「{システムドライブ以外で最大容量のドライブ} :%ArcSuite」です。

5. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
cacls "{ドロワーのストレージパスに指定したフォルダー}" /T /C /P Administrators:F  
{サービス起動ユーザー} :F
```

- 補足** {サービス起動ユーザー} は、通常は「ARCUSRSVC」です。

6. 手順 4 ～ 5 を繰り返して、同様に、リストアしたフォルダーでコマンドを実行します。
7. 手順 4 ～ 6 を繰り返して、「ごみ箱のストレージパスに指定したフォルダー」および「アーカイブ保存データの出力先フォルダー」も同様にコマンドを実行します。

参照 リストアに使用するバックアップデータの種類、格納場所については、「第 2 部 オンラインバックアップ」の「[1.8.2 定期的にバックアップするデータ](#)」(P.33) を参照してください。

2.12 コラボスペースデータのリストア

バックアップしたデータから、コラボスペースデータをリストアします。

2.12.1 リストアするデータ

次のデータをリストアします。

- ・ コラボスペースのインポートフォルダー
- ・ コラボスペースのタスクのアーカイブデータを出力するフォルダー

2.12.2 コラボスペースデータをリストアする

1. ArcSuite がインストールされているサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. コラボスペースのバックアップデータを、バックアップデータと同じ階層のフォルダーにリストア（コピー）します。
3. Windows の [スタート] メニューから、[Windows システムツール] > [コマンドプロンプト] を右クリックし、[その他] > [管理者として実行] を選択します。
[管理者：コマンド プロンプト] 画面が表示されます。
4. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
cd /d {コラボスペースのインポートフォルダー}
```

- 補足** ・ {コラボスペースのインポートフォルダー} は、「第2部 オンラインバックアップ」の「[\[コラボスペースのインポートフォルダー\]を確認する \(P.37\)](#)」を参照して、確認してください。
- ・ {ArcSuite のユーザーホーム} のデフォルトは、「{システムドライブ以外で最大容量のドライブ}:¥ArcSuite」です。

5. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
cacls " {コラボスペースのインポートフォルダー} " /T /C /P Administrators:F {サービス起動ユーザー} :F
```

- 補足** {サービス起動ユーザー} は、通常は「ARCUSRSVC」です。

6. 手順4～5を繰り返して、「コラボスペースのタスクのアーカイブデータを出力するフォルダー」についても同様にコマンドを実行します。

- 参照** 「コラボスペースのタスクのアーカイブデータを出力するフォルダー」は、「第2部 オンラインバックアップ」の「[\[コラボスペースのタスクのアーカイブデータを出力するフォルダー\]を確認する \(P.37\)](#)」を参照してください。

2.13 ワークフローデータのリストア

バックアップしたデータから、ワークフローデータをリストアします。

2.13.1 リストアするデータ

次のデータをリストアします。

- ・ 外部コマンドの配置フォルダー

2.13.2 ワークフローデータをリストアする

1. ArcSuite がインストールされているサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. ワークフローのバックアップデータを、バックアップデータと同じ階層のフォルダーにリストア（コピー）します。
3. Windows の [スタート] メニューから、[Windows システムツール] > [コマンドプロンプト] を右クリックし、[その他] > [管理者として実行] を選択します。
[管理者：コマンド プロンプト] 画面が表示されます。
4. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
cd /d {外部コマンドの配置フォルダー}
```

- 補足** ・「外部コマンドの配置フォルダー」が、「{ArcSuite のユーザーホーム}」フォルダーの下階層にある場合は、手順 [6](#) に進みます。
- ・ {ArcSuite のユーザーホーム} のデフォルトは、「{システムドライブ以外で最大容量のドライブ}:¥ArcSuite」です。

5. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
cacls "{外部コマンドの配置フォルダー}" /T /C /P Administrators:F {サービス起動ユーザー} :F
```

- 補足** {サービス起動ユーザー} は、通常は「ARCUSRSVC」です。

6. 手順 [4](#) ～ [5](#) を繰り返して、同様に、リストアしたフォルダーでコマンドを実行します。

参照 リストアに使用するバックアップデータの種類、格納場所については、「第 2 部 オンラインバックアップ」の [「1.8.2 定期的にバックアップするデータ」\(P.33\)](#) を参照してください。

2.14 アップデーター、ホットフィックス情報の削除

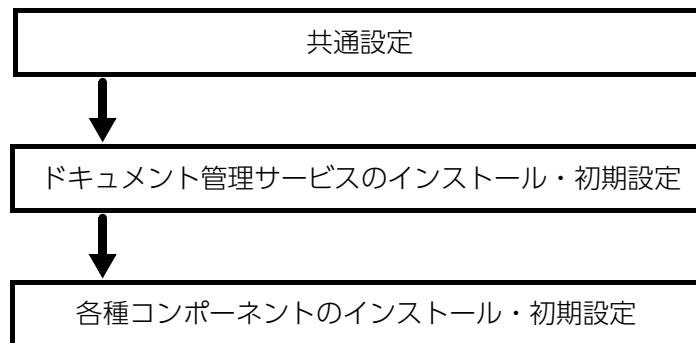
バックアップデータを作成したArcSuiteサーバーに、アップデーターまたはホットフィックスを適用していた場合には、その情報を削除する必要があります。

補足 バックアップデータを作成した環境に、アップデーター、ホットフィックスを適用していない場合は、この操作は不要です。

1. ArcSuite がインストールされているサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. 「ArcSuite 4.0 インストール」インストールメディアを、ドライブに挿入します。
3. 次のファイルをコピーします。
「{インストールメディア} ¥Service¥Tools¥Backup¥unpatch.zip」
4. コピーした zip ファイルを、サーバーに展開します。
5. 次のファイルがあることを確認します。
「unpatch.reg」ファイル
6. 「unpatch.reg」ファイルをダブルクリックします。

2.15 ArcSuite のインストール

リストアしたデータからアップデーター情報を削除したあと、ArcSuiteをインストールします。インストールする手順の流れは、次のとおりです。



注記 インストールするときに、[サービス起動ユーザー情報] 画面および [サービス起動ユーザーのグループ情報] 画面には、バックアップしたサーバーにインストールするときに入力した値と同じ値を入力してください。

補足 通常、「サービス起動ユーザー情報」のユーザー名は「ARCUSRSVC」、「サービス起動ユーザーのグループ情報」のユーザー名は「ARCGRPSVC」です。

参照 設置の詳細な手順は、『セットアップガイド』を参照してください。

2.16 「mime.types」 ファイルのリストア

バックアップしたデータに、ArcSuiteの設定データの「mime.types」ファイルが含まれている場合は、そのファイルをリストアします。

2.16.1 リストアするデータ

次のデータをリストアします。

- ・「{ArcSuite のプログラムホーム} %Service%Java%jre%lib」にある「mime.types」ファイル

補足 {ArcSuite のプログラムホーム} のデフォルトは、「C:%Program Files%FUJIFILM%ArcSuite」です。

2.16.2 「mime.types」 ファイルをリストアする

1. ArcSuite がインストールされているサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. 「mime.types」ファイルのバックアップを、決められた格納場所にリストア（コピー）します。

参照 「mime.types」ファイルの格納場所については、「第 2 部 オンラインバックアップ」の[「1.8.1 インストール時および設定変更時にバックアップするデータ」\(P.32\)](#)を参照してください。

2.17 アップデーター、ホットフィックスの適用

バックアップしたArcSuiteサーバーに、アップデーターまたはホットフィックスを適用していた場合には、同じバージョンのアップデーターまたはホットフィックスを適用する必要があります。

また、必要に応じて、最新のアップデーター、ホットフィックスを適用します。

アップデーター、ホットフィックスは弊社の「ArcSuite購入ユーザー専用」ページまたは「ArcSuiteサポート契約ユーザー専用ページ」からダウンロードできます。

- 補 足**
- ・ ページを表示するには、ユーザー名とパスワードの入力が必要です。
 - ・ ダウンロードしたあとの操作は、付属の Readme.txt を参照してください。

2.18 不要なデータの削除

オンラインバックアップで作成したバックアップデータは、ArcSuiteを稼働させながら作成したバックアップデータのため、次回、サービスを起動するときには不要なログイン情報などが含まれています。これらのデータはサービスを起動する前に削除します。

参 照 不要なデータを削除する手順については、[「1.10 不要なデータの削除」\(P.70\)](#)を参照してください。

2.19 サービスの起動

インストールされているArcSuiteのすべてのサービスを起動します。

2.19.1 サービスを起動する

ArcSuiteのすべてのサービスを起動するには、はじめにArcSuiteがインストールされているサーバーで、サービスを起動します。そのあと、キャプチャリングサービスがインストールされているサーバーで、サービスを起動します。

- 注記**
- ・各サービスは、決められた順序で起動してください。
 - ・次のサービスは、手動で起動しないでください。
 - OracleVssWriter {SID}
 - OracleOraDB19Home1MTSRecoveryService
 - OracleRemExecServiceV2
 - OracleJobScheduler {SID}

補足 使用している環境によって、表示されないサービスがあります。その場合は、次に記載されているサービスを起動します。

1. ArcSuite がインストールされているサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。

2. Windows の [スタート] メニューから、[Windows 管理ツール] > [サービス] を選択します。
[サービス] 画面が表示されます。

3. サービスを選択して、[サービスの開始] をクリックします。次の順序で起動します。

- (1) OracleOraDB19Home1TNSListener
- (2) OracleService {SID}
- (3) DocuWorks Print Service
- (4) Fx Doc Cnv Helper
- (5) ArcSuite Basic Service
- (6) ArcSuite Full Text Search Service
- (7) ArcSuite kSearchDuo Service
- (8) ArcSuite Repository Master Admin Service
- (9) ArcSuite Repository Service
- (10) ArcSuite Collabo Service
- (11) ArcSuite Web Application Service
- (12) ArcSuite Monitoring Service
- (13) World Wide Web Publishing Service

参照 {SID} については、「第 2 部 オンラインバックアップ」の [「1.5.1 ArcSuite に関連するサービスを確認する」\(P.28\)](#) で説明しています。参照してください。

4. ArcSuite キャプチャリングサービスがインストールされているサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。

5. Windows の [スタート] メニューから、[Windows 管理ツール] > [サービス] を選択します。
[サービス] 画面が表示されます。

6. サービスを選択して、[サービスの開始] をクリックします。次の順序で起動します。

(1) ArcSuite Capturing Service

(2) ArcSuite Capturing Service Admin

2.20 ライセンスの認証

旧サーバーで使用していたライセンス認証を解除して、そのライセンスを新規サーバーで利用できるようにします。

ハードウェアの故障などの理由で、旧サーバーで使用していたライセンス認証を解除できない状態の場合は、『ライセンス認証ガイド』を参照してライセンス認証を解除してください。そのあと、新規サーバーでライセンス認証を実行してください。



付録

付録 A レジストリーのバックアップとリストア

レジストリーのバックアップとリストアには、Windowsに標準で用意されている「reg.exe」コマンドを使用します。

付録 A.1 レジストリーをバックアップする

1. ArcSuite がインストールされているサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. Windows の [スタート] メニューから、[Windows システムツール] > [コマンドプロンプト] を右クリックし、[その他] > [管理者として実行] を選択します。
[管理者：コマンド プロンプト] 画面が表示されます。
3. 次のコマンドを入力し、<Enter> キーを押します。

```
REG EXPORT "HKLM¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥FUJIFILM¥ArcSuite" {ファイルの出力先パス} /y
```

{ファイルの出力先パス} に指定したファイルに、レジストリーがバックアップされます。

4. 次のコマンドを入力し、<Enter> キーを押します。

```
REG EXPORT "HKLM¥SOFTWARE¥FUJIFILM¥ArcSuite" {ファイルの出力先パス} /y
```

{ファイルの出力先パス} に指定したファイルに、レジストリーがバックアップされます。

付録 A.2 レジストリーをリストアする

1. ArcSuite がインストールされているサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. Windows の [スタート] メニューから、[Windows システムツール] > [コマンドプロンプト] を右クリックし、[その他] > [管理者として実行] を選択します。
[管理者：コマンド プロンプト] 画面が表示されます。
3. 次のコマンドを入力し、<Enter> キーを押します。

```
REG IMPORT {ファイルの格納先パス}
```

レジストリーがリストアされます。

補足 {ファイルの格納先パス} には、バックアップしたレジストリーのファイルのパスを指定します。

付録 B 「dbfiles.txt」 ファイルの出力例

「dbfile.txt」には、次のようなデータベースのファイル情報が記述されます。

```
# 表領域のデータファイル
D:¥DATABASE¥DATAFILES¥ASEMHOST¥SYSTEM01.DBF
D:¥DATABASE¥DATAFILES¥ASEMHOST¥SYSAUX01.DBF
D:¥DATABASE¥DATAFILES¥ASEMHOST¥UNDOTBS01.DBF
D:¥DATABASE¥DATAFILES¥ASEMHOST¥USERS01.DBF
D:¥DATABASE¥DATAFILES¥ASEMHOST¥EXAMPLE01.DBF
D:¥DATABASE¥DATAFILES¥ASEMHOST¥RMS.DBF
D:¥DATABASE¥DATAFILES¥ASEMHOST¥RMS_NIM.DBF
D:¥DATABASE¥DATAFILES¥ASEMHOST¥PORTAL_TBS.DBF
D:¥DATABASE¥DATAFILES¥ASEMHOST¥DREPSYS.DBF
D:¥DATABASE¥DATAFILES¥ASEMHOST¥CMESSAGE.DBF
D:¥DATABASE¥DATAFILES¥ASEMHOST¥CMESSAGE_CAB1.DBF
D:¥DATABASE¥DATAFILES¥ASEMHOST¥EAPPLI.DBF
D:¥DATABASE¥DATAFILES¥ASEMHOST¥PUB_CAB_01.DBF
D:¥DATABASE¥DATAFILES¥ASEMHOST¥PUB_CAB_02.DBF

# 一時表領域のデータファイル
D:¥DATABASE¥DATAFILES¥ASEMHOST¥TEMP01.DBF
D:¥DATABASE¥DATAFILES¥ASEMHOST¥DREPTMP.DBF

# REDO ファイル
D:¥DATABASE¥DATAFILES¥ASEMHOST¥REDO03.LOG
D:¥DATABASE¥DATAFILES¥ASEMHOST¥REDO02.LOG
D:¥DATABASE¥DATAFILES¥ASEMHOST¥REDO01.LOG

# 制御ファイル
D:¥DATABASE¥DATAFILES¥ASEMHOST¥CONTROL01.CTL
D:¥DATABASE¥FAST_RECOVERY_AREA¥ASEMHOST¥CONTROL02.CTL

# サーバーパラメータファイル
D:¥DATABASE¥DBHOME_1¥DATABASE¥SPFILEASEMHOST.ORA
```

付録 C バックアップのためのチェックリスト

項目	内容	レ	備考
保存先	バックアップデータを保存するディスクまたはサーバー		用意されていること。
作成ツール	バックアップソフトウェア		用意されていること。
システム構成	オールインワン構成		
機能のインストール	・ 統合検索サービス ・ ArcEPS		インストールされていないこと。
	・ キャプチャリングサービス		別サーバーにインストールされていること。
インストール先	データベース		システムドライブ以外であること。
	ArcSuiteのユーザーホーム		
バージョン	アップデーターのバージョン ()		
	ホットフィックスのバージョン ()		
関連するサービス	ArcSuite Basic Service		インストールされているかどうか。
	ArcSuite Repository Service		
	ArcSuite Repository Master Admin Service		
	ArcSuite Collabo Service		
	ArcSuite Web Application Service		
	ArcSuite Full Text Search Service		
	ArcSuite kSearchDuo Service		
	Fx Doc Cnv Helper		
	DocuWorks Print Service		
	ArcSuite Monitoring Service		
	OracleOraDB19Home1MTSRecoveryService		
	OracleVssWriter {SID}		
	OracleOraDB19Home1MTSRecoveryService		
	OracleRemExecServiceV2		
	OracleJobScheduler {SID}		
	OracleService {SID}		
サービス起動ユーザー、グループ	インストールしたときに設定したサービス起動ユーザー ()		
	インストールしたときに設定したグループ ()		

項目	内容	レ	備考
ハードディスク インストール時、 設定変更時に バックアップす るデータの格納 場所	ArcSuiteがインストールされているサーバーの空き容量		データベースのアーカイブログを保存できる空き容量が十分にあること。
			スナップショットを一時的に保存できる空き容量が十分にあること。
	ArcSuiteにあるレジストリキー		レジストリキーの設定データ
	PWD {SID} .ora		データベースの設定データ
	listener.ora		
	tnsmanes.ora		
	sqlnet.ora		
	{ArcSuiteのプログラムホーム} ¥Service¥Java¥jre¥lib¥mime.types		・ ArcSuite の設定データ ・ ファイルがあるとき。
定期的にバックアップするデータの格納場所	表領域のデータファイル		データベースの運用データ 補 足 「{ホスト名_SID}」フォルダーは、存在しない場合があります。
	一時表領域のデータファイル		
	制御ファイル		
	REDOファイル		
	サーバーパラメーターファイル		
	アーカイブログファイル		
	「fast_recovery_area」 フォルダー		
	「diag」 フォルダー		
	「{ホスト名_SID}」 フォルダー		
	「sysman」 フォルダー		
	{ArcSuiteのユーザーホーム} ¥Service		ユーザーホームのデータ
	ドロワーのストレージパスに指定したフォルダー		ドキュメント管理サービスのデータ
	ごみ箱のストレージパスに指定したフォルダー		
	アーカイブ保存データの出力先フォルダー		
	コラボスペースのインポートフォルダー		コラボスペースのデータ
	コラボスペースのタスクのアーカイブデータを出力するフォルダー		
	外部コマンドの配置フォルダー		ワークフローのデータ